匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告書



平成20年12月

匝 瑳 市

目 次

Ι		調査の)概	!要······	1
	1	調査	目	的	3
	2	調査	扩	·法······	3
	3	調査	 項	〔目	3
	4	回坝	又結	果	3
	5	集計	十結	乗について	4
п		回答者	音の)属性	5
Ш		調査網	丰果	1	9
	1	男女	て平	等に関する意識について2	1
		1 - 1		男女平等意識2	1
		1 - 2	2	男性のほうが優遇されていると思う理由3	0
	2	家庭	至生	:活について3	2
		2 - 1	_	家庭における役割分担3	2
		2 - 2	2	平日における家事・育児・介護・仕事の時間4	2
		2 - 3	}	結婚・子ども・離婚4	6
	3	男女	ての	役割等に関する意識について5	0
		3 - 1		男女の役割意識	0
	4	職業	巻に	.ついて5	6
		4 - 1		職場における休暇取得環境5	6
		4 - 2	2	育児休業の取得6	0
		4 - 3	}	管理職への就任願望6	1
		4 - 4	Į.	管理職になりたくない理由6	3
		4 - 5	5	配偶者の管理職への就任願望6	5
		4 - 6	3	理想の働き方6	7
		4 - 7	7	配偶者に希望する収入6	8
		4 - 8	3	女性の仕事や結婚についての理想像6	9

Ę	女性(の社会への参画について71
	5 – 1	指導的地位に占める女性の割合71
	5 - 2	女性の割合が増えるほうがよいと思う職業73
	5 - 3	指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思わない理由75
6	5 人権に	こついて77
	6 - 1	配偶者等の暴力の経験77
	6 - 2	配偶者等の暴力にかかる相談79
	6 - 3	配偶者等の暴力にかかる相談先80
	6 - 4	配偶者等の暴力にかかる相談をしなかった理由82
	6 - 5	セクシャルハラスメントの経験84
7	7 男女	共同参画の推進について86
	7 - 1	男女共同参画社会の実現に向けた必要な取り組み86
	7 - 2	男女共同参画社会の形成への賛否88
	7 - 3	男女共同参画社会の形成に賛成しない理由89
IV	「その作	也」の意見91
V	自由意見	見97
VI	調査票·	

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、男性も女性も個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて「匝瑳市男女共同参画計画」(仮称)を策定するにあたり、男女共同参画に関する市民の意識を把握し、計画の策定と今後の施策の基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査方法

(1) 調査対象 匝瑳市内に居住している 20 歳以上の方

(2) 対象者数 1,000人(男性500人・女性500人)

(3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出

(4) 調査期間 平成 20 年 8 月 1 日~22 日

(5) 調査方法 郵送配布・郵送回収

3 調査項目

- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 男女の役割等に関する意識について
- (4) 職業について
- (5) 女性の社会への参画について
- (6) 人権について
- (7) 男女共同参画の推進について
- (8) 回答者の属性

4 回収結果

配布数	回収数	有効	無効	回収率
1,000票	344 票	344 票	0 票	34.4%

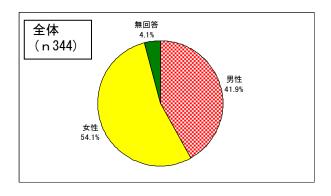
5 集計結果について

- (1) 調査結果の数値は、原則としてパーセント(%)で表しています。
- (2) 回答率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記していますので合計が100%にならない場合があります。
- (3) 回答率は、回答者数を基数として算出しているため、複数回答の質問では各項目の比率を合計すると 100% を超える場合があります。
- (4) 基数となる数字は「n」で表しています。

Ⅱ 回答者の属性

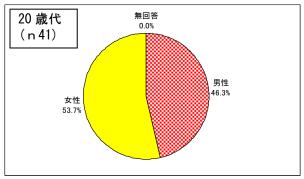
Ⅱ 回答者の属性

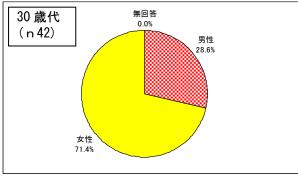
1 性 別

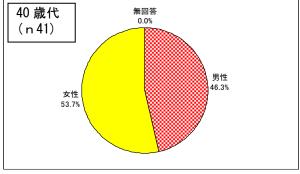


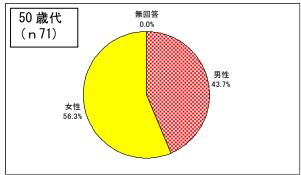
【全体】

「男性」が 41.9%、「女性」が 54.1% と、「男性」の回答者より「女性」の回答者のほうが 多くなっています。

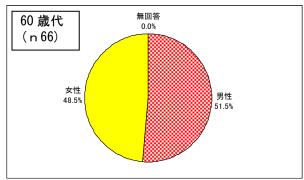


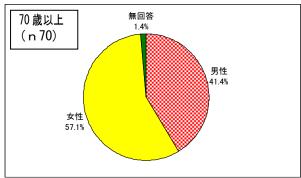






性別(つづき)

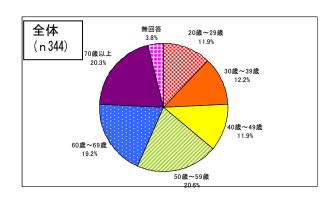




【年齢別】

「60 歳代」を除き、「女性」の回答者のほうが多くなっています。「30 歳代」においては、「男性」が 28.6%、「女性」が 71.4%と、他の年齢層に比べ「男性」の割合が少なくなっています。

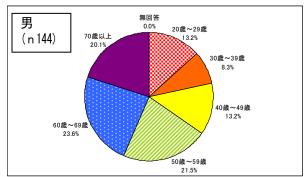
2 年 齢

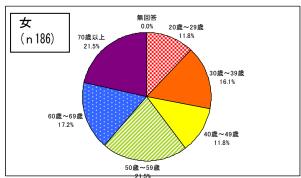


【全体】

「50 歳~59 歳」が 20.6%と最も多く、次いで「70 歳以上」が 20.3%、「60 歳~69 歳」が 19.2%となっています。一方、「20 歳~29 歳」及び「40 歳~49 歳」が 11.9%と最も少なく、「30 歳~39 歳」が 12.2%となっています。

したがって、高い年齢層において回答者が多くなっている傾向にあります。

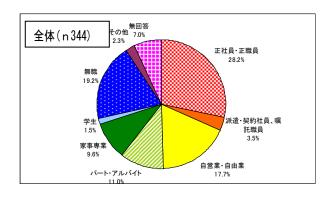




【性別】

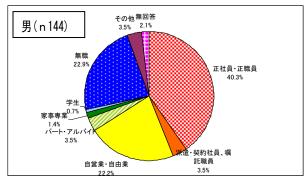
「30歳代」においては、女性が16.1%に対し男性は8.3%と、男性が女性の半数程度となっており、ポイント差が大きくなっています。

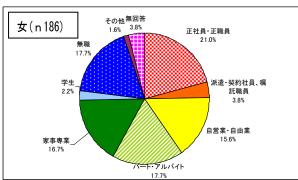
3 職業



【全体】

「正社員・正職員」が 28.2%と最も多く、次いで「無職」が 19.2%、「自営業・自由業」 が 17.7%となっています。



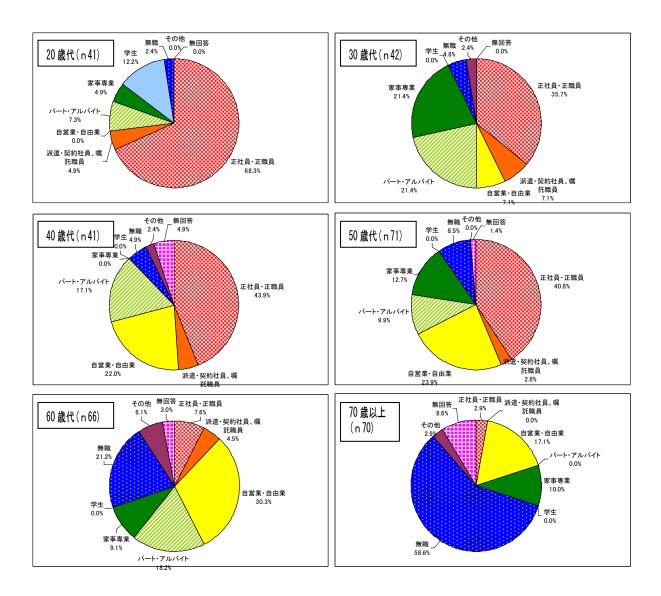


【性別】

「正社員・正職員」は、男性が 40.3% と 4 割強であるのに対し、女性は 21.0% と 2 割強と、約 20 ポイント男性のほうが多くなっています。

また、「パート・アルバイト」及び「家事専業」については、男性が 3.5%及び 1.4%に対し、女性は 17.7%及び 16.7%と、男女でポイント差が大きくなっています。

職業(つづき)

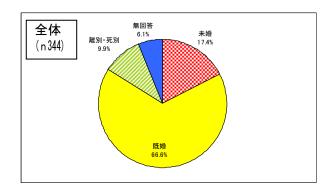


【年齢別】

「正社員・正職員」は、20歳代が68.3%と7割弱を占め最も多く、次いで40歳代が43.9% となっています。

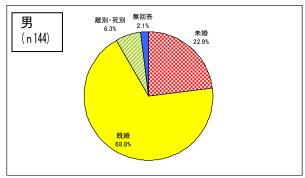
また、「正社員・正職員」は、30歳代においては35.7%と、他の年齢層(現役世代)に比べ低くなっている一方、「家事専業」は21.4%と最も多くなっています。しかし、40歳代では「正社員・正職員」が43.9%と4割以上を占めている一方、「家事専業」は0.0%となっています。したがって、30歳代においては子育てをするため、いったん職を離れ、子どもが成長したら再び就職しているという傾向がうかがわれます。

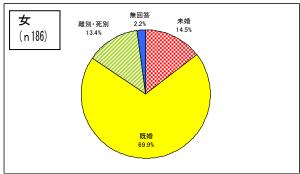
4 結婚の有無



【全体】

「既婚」が66.6%、「未婚」が17.4%、「離別・死別」が9.9%となっています。

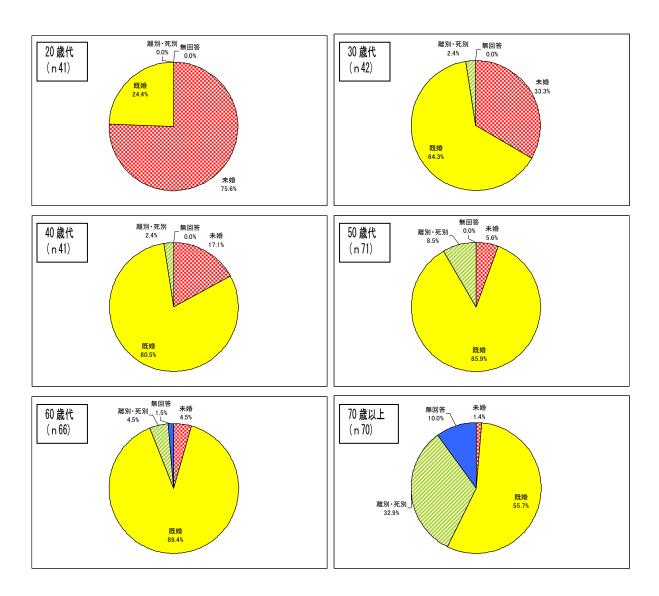




【性別】

「未婚」は、女性が 14.5%に対し、男性は 22.9%と、男性のほうが多くなっています。「離別・死別」については、男性が 6.3%、女性が 13.4%と、女性のほうが多くなっています。

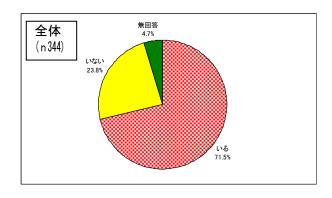
結婚の有無(つづき)



【年齢別】

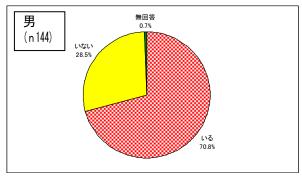
「未婚」は、20 歳代において 75.6%を占めており 4 人に 3 人が未婚となっています。30 歳代では 33.3% と 3 人に 1 人が未婚となっており、40 歳代では 17.1% と 6 人に 1 人が未婚となっています。

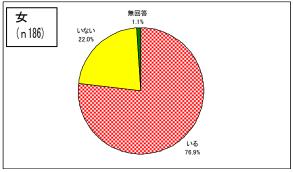
5 子どもの有無



【全体】

「いる」と回答した方が71.5%、「いない」と回答した方が23.8%となっています。

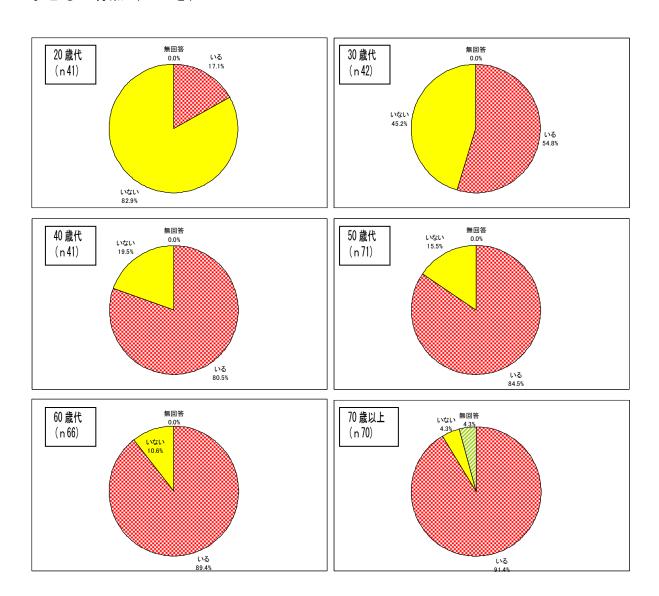




【性別】

「いる」と回答した方は、男性が 70.8%、女性が 76.9%となっており、子どもがいる方は 女性のほうがやや多くなっています。

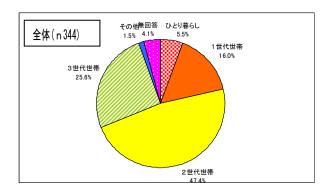
子どもの有無(つづき)



【年齢別】

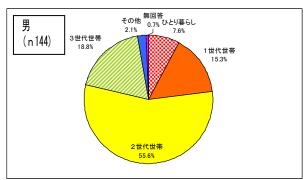
「いる」と回答した方は、70歳以上が91.4%と最も多く、20歳代が17.1%と最も少なくなっています。なお、30歳代において「いない」と回答した方は45.2%と5割近くを占めています。

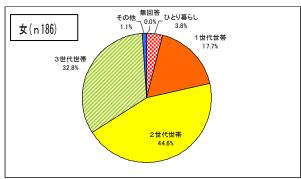
6 家族構成



【全体】

「2世代世帯」(親・子) が 47.4% と最も多く、次いで「3世代世帯」(親・子・孫) が 25.6%、「1世代世帯」(夫婦のみ) が 16.0% となっています。

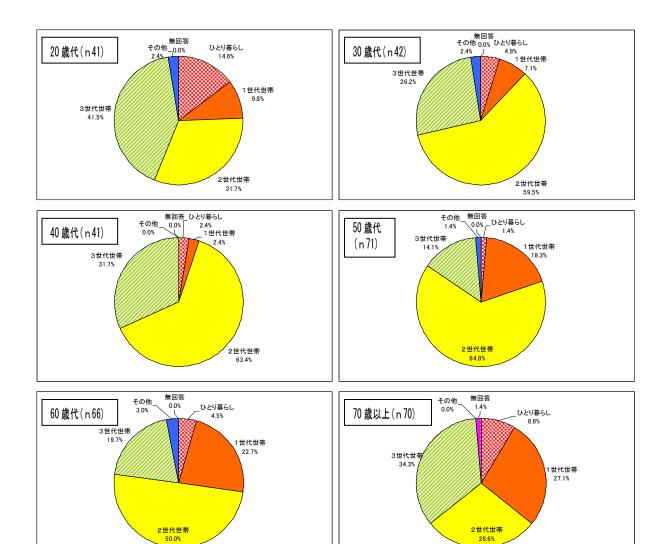




【性別】

「3世代世帯」(親・子・孫) は、男性が 18.8%に対し女性が 32.8%と、男女のポイント 差が大きくなっています。

家族構成(つづき)



【年齢別】

70歳以上において「1世代世帯」(夫婦のみ)が多くなっています。

また、「ひとり暮らし」は、20歳代が14.6%と最も多く、次いで70歳以上が8.6%と、他の年齢層に比べやや多くなっています。

_	18	_
---	----	---

Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

1 男女平等に関する意識について

1-1 男女平等意識

問 1 今の生活や社会の状況は、どのようになっていると思いますか。(Oはそれぞれ 1 つずつ)

【全体】

すべての項目において、女性より男性のほうが優遇されていると回答した方が多くなっています。「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせると、『政治の場では』の項目が 68.3%と7割弱を占め最も多くなっており、次いで『社会通念・慣習では』の項目が 63.4%と6割を超えています。

「平等になっている」を見ると、『学校教育の場では』の項目が 48.3%と約5割を占めており、他の項目に比べ、学校教育の場では平等になっていると思う方が多くなっています。

【性別】

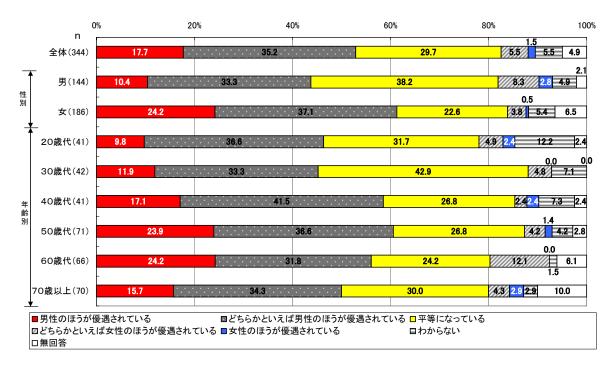
男女とも、すべての項目において女性より男性のほうが優遇されていると回答した方が多くなっています。なお、すべての項目において、男性回答者より女性回答者のほうが、「男性のほうが優遇されている」及び「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」と回答した方が多くなっています。一方、「女性のほうが優遇されている」及び「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と回答した方については、すべての項目において女性回答者より男性回答者のほうが多くなっています。

「平等になっている」を見ると、いずれの項目においても女性回答者より男性回答者 のほうが「平等になっている」と思う方が多くなっています。

【年齢別】

各年齢層とも、すべての項目において女性より男性のほうが優遇されていると回答した方が多くなっています。なお、年齢層が高くなるにつれ、女性より男性のほうが優遇されていると回答した方が多くなっている傾向にあります。一方、年齢層が低くなるにつれ、「平等になっている」と回答した方が多くなっている傾向にあります。

1. 家庭生活では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(17.7%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(35.2%)を合わせると 52.9%と 5割を超えるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.5%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(5.5%)を合わせても 7.0%と少なく、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。「平等になっている」と回答した方は 29.7%と約 3割となっています。

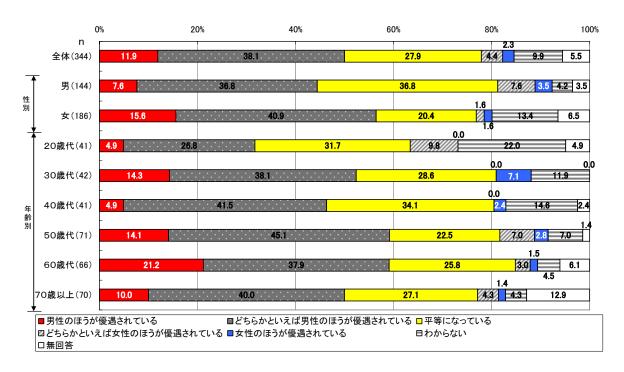
【性別】

男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(10.4%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(33.3%)を合わせると 43.7%と4割強であるのに対し、女性回答者は、同 24.2%、同 37.1%、計 61.3%と6割を超えており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。「平等になっている」と回答した方は、女性回答者が 22.6%と2割強であるのに対し、男性回答者では 38.2%と4割弱であり、男性のほうが平等になっていると思う方が多くなっています。

【年齢別】

30 歳代は、「男性のほうが優遇されている」(11.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(33.3%)を合わせると 45.2%であるのに対し、50 歳代では、同 23.9%、同 36.6%、計 60.5%と 6 割を超えています。「平等になっている」と回答した方は、60歳代では 24.2%であるのに対し、30歳代では 42.9%と 4 割を超えています。

2. 地域活動の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(11.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(38.1%)を合わせると 50.0%と 5割となっているのに対し、「女性のほうが優遇されている」(2.3%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(4.4%)を合わせても 6.7%と少なく、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。「平等になっている」と回答した方は 27.9%と 3割弱となっています。

【性別】

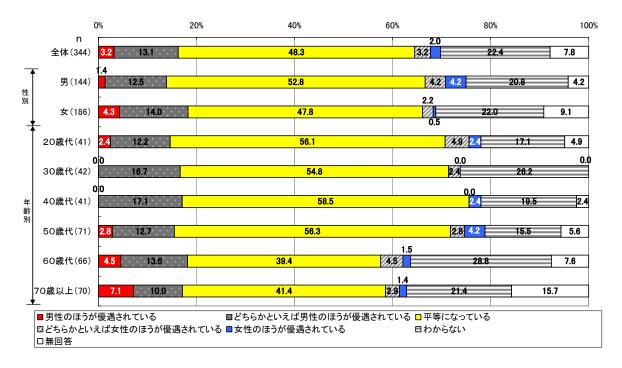
男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(7.6%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(36.8%) を合わせると 44.4%であるのに対し、女性回答者は、同 15.6%、同 40.9%、計 56.5%と 5 割を超えており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は、女性回答者が20.4%と約2割であるのに対し、 男性回答者では36.8%であり、男性のほうが平等になっていると思う方が多くなってい ます。

【年齢別】

「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」 を合わせると 50 歳代で 59.2%、60 歳代で 59.1%とそれぞれ 6 割弱を占め、50 歳代及び 60 歳代において、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

3. 学校教育の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(3.2%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(13.1%) を合わせると 16.3%と、他の項目に比べ学校教育の場では男性のほうが優遇されていると思う方の割合が低くなっています。なお、「女性のほうが優遇されている」(2.0%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(3.2%) を合わせると 5.2%となっています。

「平等になっている」と回答した方は 48.3%と 5 割弱を占め、他の項目に比べ学校教育の場では平等になっていると思う方が多くなっています。

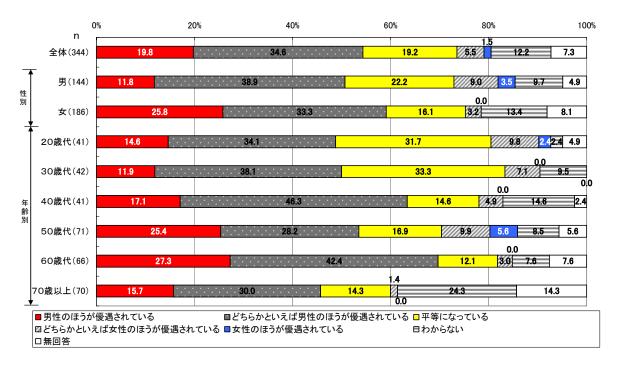
【性别】

男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(1.4%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(12.5%)を合わせると 13.9%、女性回答者では、同 4.3%、同 14.0%、計 18.3%と、他の項目に比べ学校教育の場では男性のほうが優遇されていると思う方の割合が低くなっています。「平等になっている」と回答した方は、男性回答者が 52.8%と5割強、女性回答者が 47.8%と5割弱を占め、男性も女性も他の項目に比べ学 校教育の場では平等になっていると思う方が多くなっています。

【年齢別】

20 歳代から 50 歳代は「平等になっている」と回答した方がいずれも 5 割を超え、他の項目に比べ平等になっていると思う方が多くなっています。

4. 職場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(19.8%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(34.6%)を合わせると 54.4%と 5割を超えるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.5%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(5.5%)を合わせても 7.0%と少なく、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は19.2%と2割弱となっています。

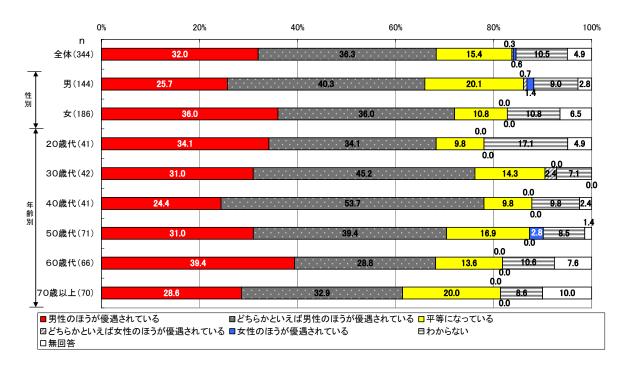
【性別】

男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(11.8%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(38.9%)を合わせると 50.7%と5割強であるのに対し、女性回答者は、同 25.8%、同 33.3%、計 59.1%と6割弱となっており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。「平等になっている」と回答した方は、女性回答者が16.1%であるのに対し、男性回答者では22.2%であり、男性のほうが平等になっていると思う方が多くなっています。

【年齢別】

すべての年齢層において「男性のほうが優遇されている」と回答した方が多くなっています。なお、「平等になっている」と回答した方は、60歳代で12.1%、70歳以上で14.3%と低くなっていますが、20歳代は31.7%、30歳代では33.3%と3分の1を占めており、年齢層が低いほうが平等になっていると思う方が多くなっている傾向にあります。

5. 政治の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(32.0%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(36.3%)を合わせると68.3%と7割弱を占めるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(0.6%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(0.3%)を合わせても0.9%と少数で、男性のほうが優遇されていると思う方が他の項目に比べ最も多くなっています。なお、「平等になっている」と回答した方は15.4%となっています。

【性別】

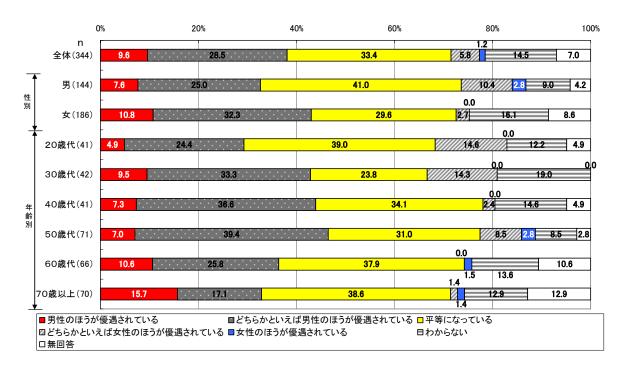
男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(25.7%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(40.3%)を合わせると 66.0%と 3分の 2 を占め、女性回答者は、同 36.0%、同 36.0%、計 72.0%と 7割を超えており、男性のほうが優遇されていると思う方の割合が他の項目より高くなっています。

「平等になっている」と回答した方は、男性回答者が20.1%と約2割、女性回答者が10.8%と約1割と低く、男性も女性も政治の場では平等になっていると思う方の割合が他の項目と比べ低くなっています。

【年齢別】

「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせると、いずれの年齢層においても6割から8割を占めており、他の項目に比べて男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

6. 法律や制度上では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(9.6%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(28.5%) を合わせると 38.1%と 4割弱であるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.2%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(5.8%) を合わせても 7.0%と低く、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は33.4%と3分の1を占めています。

【性別】

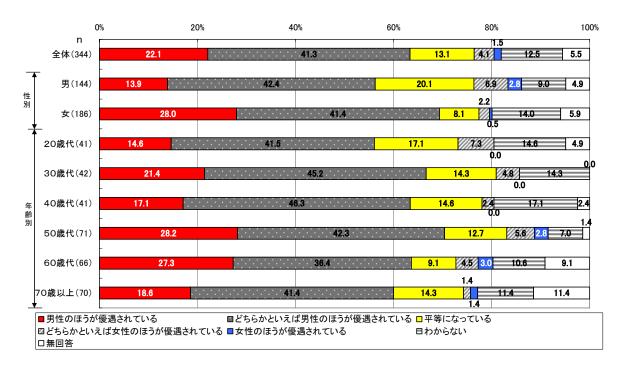
男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(7.6%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(25.0%) を合わせると 32.6%であるのに対し、女性回答者は、同 10.8%、同 32.3%、計 43.1%と4割を超えており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は、女性回答者が29.6%と3割弱であるのに対し、 男性回答者では41.0%と4割を超えており、男性のほうが平等になっていると思う方が 多くなっています。

【年齢別】

「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」 を合わせると、50歳代が46.4%と多く、20歳代が29.3%と少なくなっています。

7. 社会通念・慣習では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(22.1%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(41.3%)を合わせると 63.4%と 6割を超えるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.5%)と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(4.1%)を合わせても 5.6%と少数で、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は13.1%となっています。

【性別】

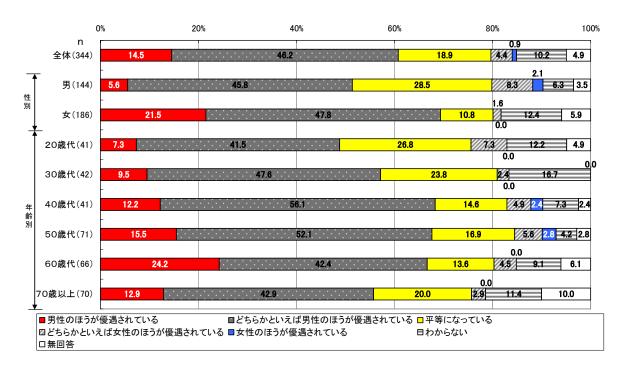
男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(13.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(42.4%)を合わせると 56.3%であるのに対し、女性回答者は、同 28.0%、同 41.4%、計 69.4%と約7割を占めており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は、男性回答者が20.1%と約2割、女性回答者が8.1%と1割に満たず、『政治の場』と同様に男性も女性も社会通念・慣習の場では平等になっていると思う方の割合が他の項目と比べ低くなっています。

【年齢別】

「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせると 50 歳代で 70.5%と約7割を占め多く、20 歳代で 56.1%と少なくなっています。

8. 社会全体では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(14.5%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(46.2%)を合わせると 60.7%と 6割を超えるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(0.9%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(4.4%)を合わせても 5.3%と少なく、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は18.9%と2割弱となっています。

【性別】

男性回答者は、「男性のほうが優遇されている」(5.6%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(45.8%) を合わせると 51.4%と 5 割強であるのに対し、女性回答者は、同 21.5%、同 47.8%、計 69.3%と約 7 割を占めており、女性回答者のほうが、男性のほうが優遇されていると思う方が多くなっています。

「平等になっている」と回答した方は、女性回答者が 10.8%と約1割であるのに対し、 男性回答者では 28.5%と3割弱となっており、男性のほうが平等になっていると思う方 が多くなっています。

【年齢別】

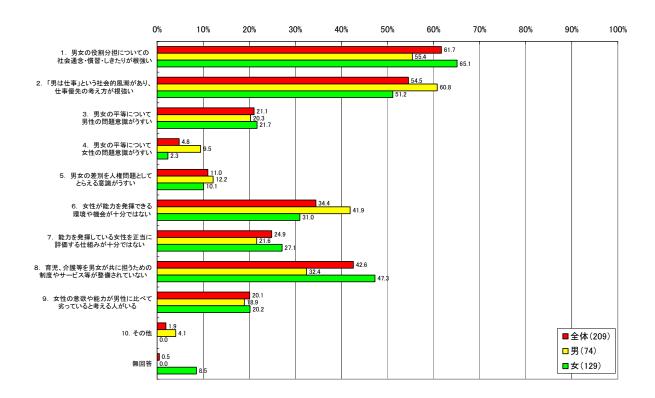
「男性のほうが優遇されている」を見ると、60歳代で24.2%と多く、20歳代で7.3% と少なくなっています。

1-2 男性のほうが優遇されていると思う理由

問1-1 問1の「8. 社会全体では」の項目で、「1」または「2」に〇をご記入した 方のみお答えください。社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思われる原 因は何だと思いますか。(〇は3つまで)

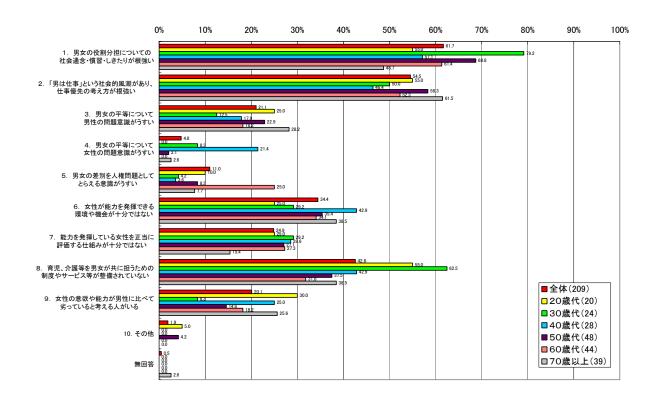
【全体】

「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」(61.7%)と回答した方が最も多く、次いで、「「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」(54.5%)、「育児、介護等を男女が共に担うための制度やサービス等が整備されていない」(42.6%)と回答した方が多くなっています。



【性別】

男性は、「「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」が 60.8% と 6 割強を占め最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」が 55.4%となっています。女性は、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」が 65.1%と最も多く、次いで「「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」が 51.2%となっています。



【年齢別】

「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」と回答した方が 20 歳代から 60 歳代のいずれの年齢層においても最も多くなっています。70 歳以上では、「「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」が 61.5%と最も多くなっています。

2 家庭生活について

2-1 家庭における役割分担

問2 次の項目について、あなたはどの程度行っていますか。(Oはそれぞれ1つずつ)

【全体】

「いつもする」項目は、『洗濯』(51.5%)、『食事の後片付け』(50.9%) が 5 割を超えて多くなっています。

「時々する」項目では、『掃除』(32.6%)、『地域活動への参加』(30.5%)、『食料品・日用品の買い物』(30.2%) が3割を超えて多くなっています。

また、「しない」項目は、『食事のしたく』(21.2%)、『地域活動への参加』(20.9%)が2割を超えています。

「あまりしない」項目は、『地域活動への参加』(12.5%)、『掃除』(12.2%)の順で多くなっています。

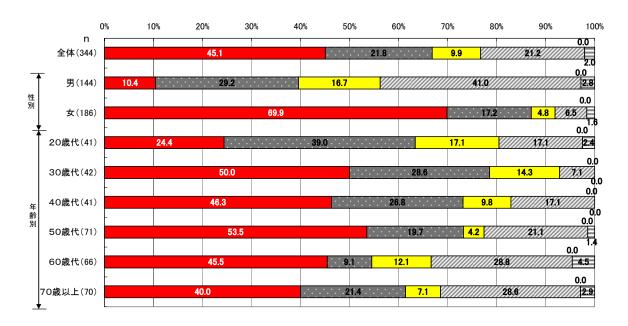
【性別】

女性は、『食事のしたく』『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』『食料品・日用品の買い物』の各項目について「いつもする」が $6\sim8$ 割を占めているのに対し、男性は $1\sim2$ 割程度にとどまっています。

【年齢別】

20 歳代で『食事のしたく』『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』『ごみ出し』『食料品・日用品の買い物』の各項目について「いつもする」が $2\sim3$ 割程度であるのに対し、50歳代では $5\sim6$ 割を占めています。

1. 食事のしたく



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 45.1% と最も多く、次いで「時々する」(21.8%)、「しない」(21.2%) となっています。

「しない」割合については、9項目の中で最も高くなっています。

【性別】

「いつもする」は、女性が 69.9%と約7割を占めているのに対し、男性は10.4%と約1割程度となっています。

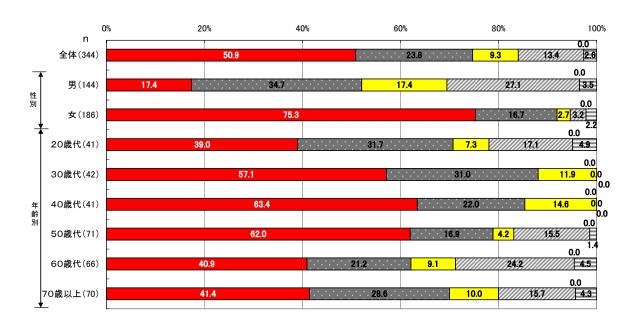
また、「しない」「あまりしない」を見ると、女性は 11.3%と 1 割程度であるのに対し、 男性は 57.7%と 6 割弱を占めています。なお、男性の「しない」割合は 41.0%と 9 項目の中で最も高くなっています。

【年齢別】

「いつもする」は、50 歳代が53.5%と最も多く、次いで30 歳代が50.0%となっており、20 歳代が24.4%と最も少なくなっています。

「時々する」割合は、20歳代が39.0%と最も高くなっています。

2. 食事の後片付け



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 50.9% と 5 割強を占め最も多く、次いで「時々する」(23.8%)、「しない」(13.4%) となっています。

【性別】

「いつもする」は、女性が 75.3% と 4 分の 3 を占めているのに対し、男性は 17.4% となっています。

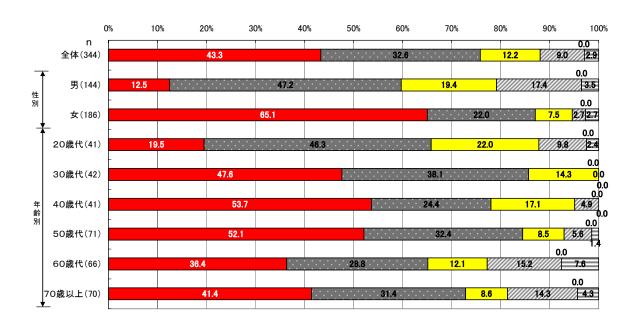
また、「しない」「あまりしない」を合わせると、女性は 5.9%と少数であるのに対し、 男性は 44.5%と 5割近くを占めています。

【年齢別】

「いつもする」は、40 歳代が63.4%と最も多く、次いで50 歳代が62.0%となっており、20 歳代が39.0%と最も少なくなっています。

「時々する」割合は、20歳代が31.7%と最も高くなっています。

3. 掃除



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 43.3% と最も多く、次いで「時々する」(32.6%)、「あまりしない」(12.2%)となっています。

「時々する」割合は、9項目の中で最も高く、「しない」割合は9.0%と最も低くなっています。

【性別】

「いつもする」は、女性が 65.1% と 3 分の 2 を占めているのに対し、男性は 12.5% と 1 割強程度となっています。

また、「しない」「あまりしない」を合わせると、女性は 10.2% と 1 割程度であるのに対し、男性は 36.8% と 3 分の 1 以上を占めています。

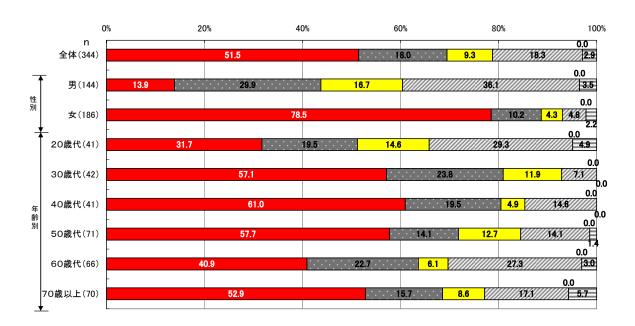
男性の「時々する」割合については、47.2%と5割近くを占め、9項目の中で最も高くなっています。

【年齢別】

「いつもする」は、40 歳代が 53.7%と最も多く、次いで 50 歳代が 52.1%となっており、20 歳代が 19.5%と最も少なくなっています。

「時々する」割合は、20歳代が46.3%と最も高くなっており、9項目の中でも最も高い割合となっています。

4. 洗濯



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 51.5% と最も多く、次いで「しない」(18.3%)、「時々する」(18.0%) となっています。なお、「いつもする」割合は、9項目の中で最も高くなっています。

【性別】

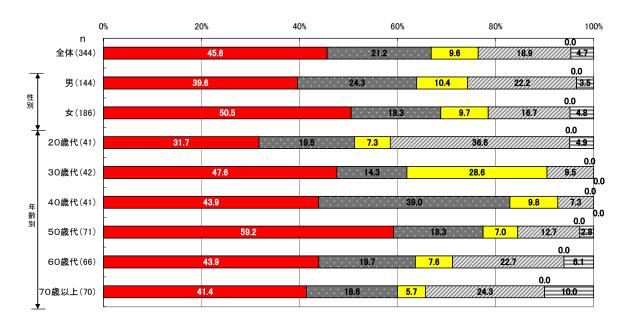
「いつもする」は、女性が 78.5% と 8 割近くを占めているのに対し、男性は 13.9% と 1 割強程度となっています。

また、「しない」「あまりしない」を合わせると、女性は 9.1%と1割弱であるのに対し、男性は52.8%と5割強を占めています。

【年齢別】

「いつもする」は、40歳代が61.0%と6割強を占め最も多く、次いで50歳代が57.7%となっており、20歳代が31.7%と最も少なくなっています。

5. ごみ出し



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 45.6% と最も多く、次いで「時々する」(21.2%)、「しない」(18.9%) となっています。

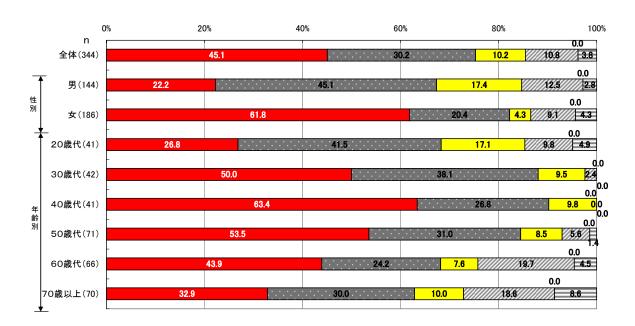
【性別】

「いつもする」は、女性が 50.5% と 5 割強を占め、男性は 39.6% と 4 割弱を占めています。なお、男性の「いつもする」割合については、 9 項目の中で最も高くなっています。

【年齢別】

「いつもする」は、50歳代が59.2%と最も多く、次いで30歳代が47.6%となっており、20歳代が31.7%と最も少なくなっています。

6. 食料品・日用品の買い物



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「いつもする」が 45.1% と最も多く、次いで「時々する」(30.2%)、「しない」(10.8%) となっています。

【性別】

「いつもする」は、女性が 61.8% と 6 割強を占めているのに対し、男性は 22.2% と 2 割強となっています。

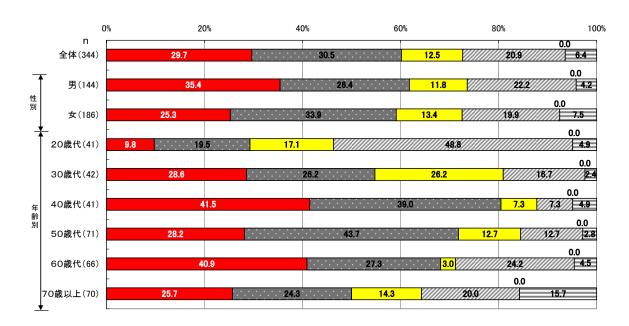
男性の「時々する」割合については 45.1%と9項目の中では『掃除』(47.2%) に次いで高くなっています。

【年齢別】

「いつもする」は、40 歳代が63.4%と最も多く、次いで50 歳代が53.5%となっており、20 歳代が26.8%と最も少なくなっています。

「時々する」割合は、20歳代が41.5%と最も高くなっています。

7. 地域活動への参加



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「時々する」が 30.5% と最も多く、次いで「いつもする」(29.7%)、「しない」(20.9%) となっています。

【性別】

「いつもする」は、男性が 35.4%、女性が 25.3%となっており、男性が 9 項目の中で 唯一女性を上回っている項目となっています。

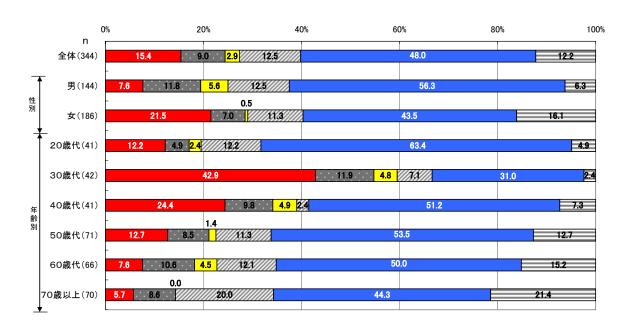
また、女性の「時々する」「あまりしない」「しない」割合については、33.9%、13.4%、19.9%で、9項目の中でいずれも最も高い割合を示しています。

【年齢別】

「いつもする」を見ると、40歳代が41.5%と最も多く、次いで60歳代が40.9%となっており、20歳代が9.8%と最も少なくなっています。

「しない」割合については、20歳代が48.8%と最も高くなっているとともに、9項目の中においても最も高くなっています。

8. 乳幼児の世話



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「該当しない」が48.0%と5割弱を占め最も多くなっています。

「いつもする」(15.4%)、「時々する」(9.0%)を合わせると 24.4%、「あまりしない」 (2.9%)、「しない」(12.5%)を合わせると 15.4%となっています。

【性別】

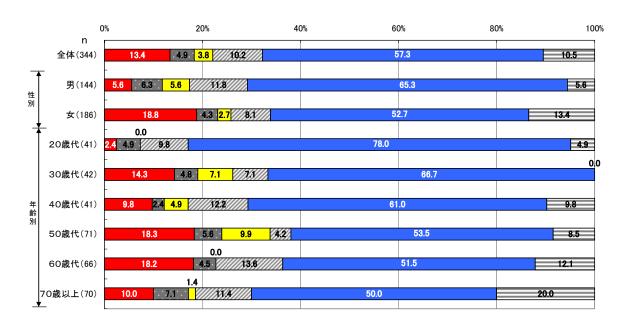
「いつもする」は、女性が 21.5%であるのに対し、男性は 7.6%となっており、女性 のほうに子育ての負担が偏っている傾向にあります。

【年齢別】

「いつもする」は、30 歳代が 42.9%と最も多く、次いで 40 歳代が 24.4%となっており、70 歳代が 5.7%と最も少なくなっています。このことから、子育て世代は 30 歳代に多いということがうかがえます。

20歳代では「該当しない」が63.4%と6割以上を占め、各年齢層の中で最も多くなっています。

9. 家族の介護



■いつもする ■時々する □あまりしない □しない ■該当しない 日無回答

【全体】

「該当しない」が57.3%と6割弱を占め最も多くなっています。

「いつもする」(13.4%)、「時々する」(4.9%) を合わせると 18.3%、「あまりしない」(3.8%)、「しない」(10.2%) を合わせると 14.0%となっています。

【性別】

「いつもする」は、女性が 18.8%であるのに対し、男性は 5.6%となっており、女性 のほうに介護の負担が偏っている傾向にあります。

【年齢別】

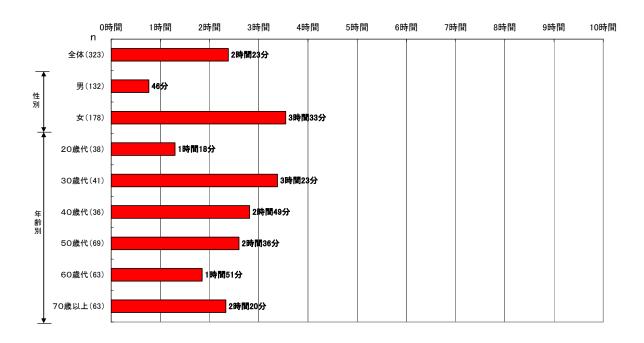
「いつもする」を見ると、50歳代が18.3%と最も多く、次いで60歳代が18.2%となっており、20歳代が2.4%と最も少なくなっています。

なお、20歳代では「該当しない」が 78.0%と8割弱を占め、各年齢層の中で最も多くなっています。

2-2 平日における家事・育児・介護・仕事の時間

問3 平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。 に時間をご記入ください。

1. 家事の時間



【全体】

平日1日当たりの平均時間は2時間23分となっています。

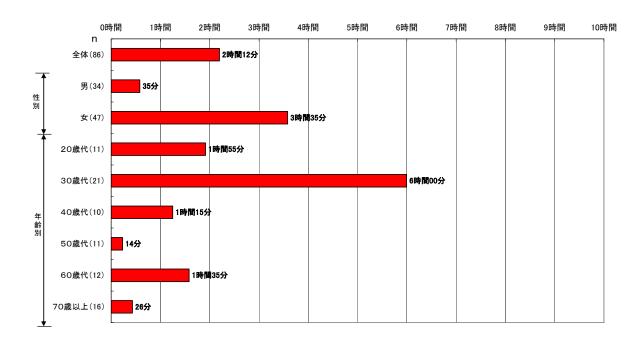
【性別】

女性が 3 時間 33 分であるのに対し、男性は 46 分で、女性の約 5 分の 1 の家事時間となっています。

【年齢別】

30 歳代が3時間23分と最も長く、次いで40歳代が2時間49分となっており、20歳 代が1時間18分と最も短くなっています。

2. 育児の時間



【全体】

平日1日当たりの平均時間は2時間12分となっています。

【性別】

女性が 3 時間 35 分であるのに対し、男性は 35 分で、女性の 6 分の 1 以下の育児時間 となっています。

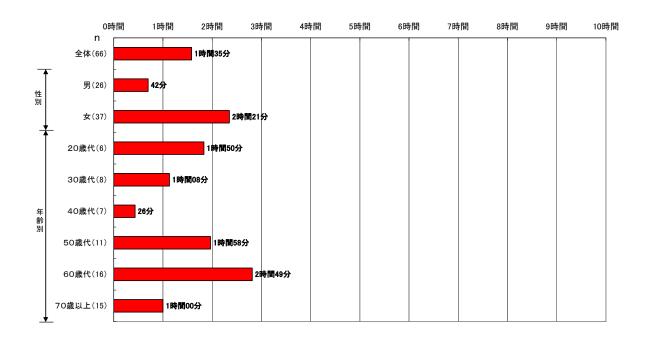
したがって、女性のほうに子育ての負担が偏っていることがうかがえます。

【年齢別】

30 歳代が 6 時間と最も長く、次いで 20 歳代が 1 時間 55 分となっており、50 歳代が 14 分と最も短くなっています。

したがって、子育てをしている方は30歳代に多いということがうかがえます。

3. 介護の時間



【全体】

平日1日当たりの平均時間は1時間35分となっています。

【性別】

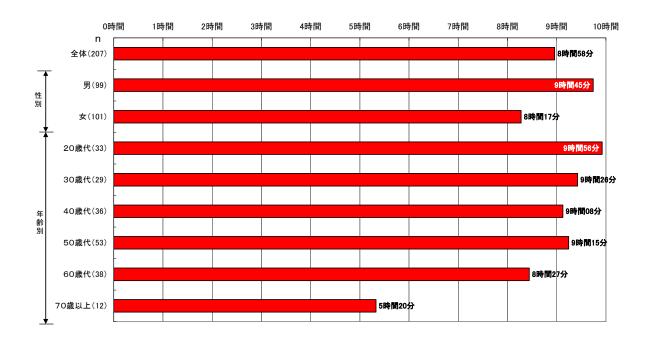
女性が2時間21分であるのに対し、男性は42分で、女性の3分の1以下の介護時間となっています。

したがって、女性のほうに介護の負担が偏っていることがうかがえます。

【年齢別】

60 歳代が 2 時間 49 分と最も長く、次いで 50 歳代が 1 時間 58 分となっており、40 歳代が 26 分と最も短くなっています。

4. 仕事の時間(通勤時間を含む)



【全体】

平日1日当たりの平均時間は8時間58分となっています。

【性別】

男性が 9 時間 45 分、女性が 8 時間 17 分となっており、仕事の時間は男性のほうが女性より 1 時間 28 分長くなっています。

【年齢別】

20 歳代が 9 時間 56 分と最も長く、次いで 30 歳代が 9 時間 26 分となっています。なお、70 歳以上における仕事の時間も 5 時間 20 分ほどあり、年齢層を考慮すると長くなっていると思われます。

2-3 結婚・子ども・離婚

問4. 次のことについて、あなたはどう思いますか。(Oはそれぞれ1つずつ)

【全体】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、『結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい』が 44.5%と5割近くを占め最も多く、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』が 32.3%、『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』が 30.8%となっています。

また、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると、『結婚しても必ずしも子どもを もつ必要はない』が 40.1%と、3項目の中で「反対」の考え方が最も多くなっています。

【性別】

男性は、『結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい』『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』のいずれの考え方においても「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成の立場の方より「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた反対の立場の方のほうが多くなっています。

一方、女性は、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた反対の立場の方より「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成の立場の方のほうが多くなっています。

したがって、男性より女性のほうがこれら3つの考え方に肯定していることがうかが えます。

また、「どちらともいえない」の回答率を見ると、いずれの考え方においても、男性より女性のほうが高くなっています。

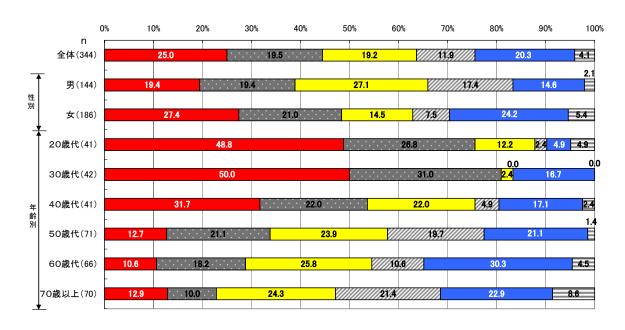
【年齢別】

『結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい』『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』のいずれの考え方においても、20歳代及び30歳代は、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた反対の立場の方より「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成の立場の方のほうが多くなっています。

一方、50歳代~70歳以上では、いずれの考え方においても「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成の立場の方より「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた反対の立場の方のほうが多くなっています。

したがって、年齢層が低いほどこれら3つの考え方に肯定している方が多く、年齢層が高いほどこれらの考え方に否定的な方が多くなっている傾向にあります。

1. 結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい



■賛成 ■どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □どちらともいえない □無回答

【全体】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると 44.5%、「反対」「どちらかといえば 反対」を合わせると 31.1%で、賛成が反対を約 13.4 ポイント上回っています。

なお、賛成が反対を上回っているのは3つの考え方の中でもこの項目のみとなっています。また、「どちらともいえない」は20.3%と2割を占めています。

【性別】

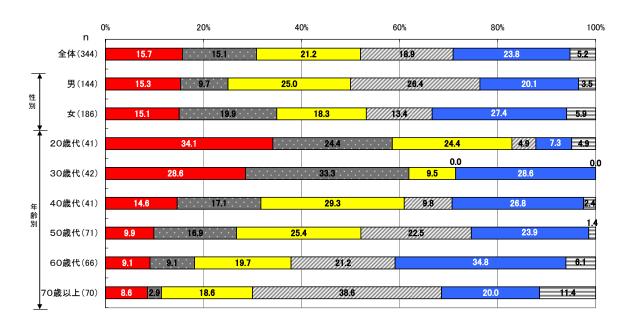
「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、男性が38.8%と4割弱、女性が48.4%と5割弱を占めており、「結婚するのは自由」という考え方は女性に多い傾向にあります。

【年齢別】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、30歳代が81.0%と8割以上を占め最も多く、次いで20歳代が75.6%となっているのに対し、70歳代は22.9%と最も少なくなっています。

したがって、年齢層が低いほど「結婚するのは自由」という考え方が多くなっている 傾向にあります。

2. 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



■賛成 ■どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □どちらともいえない □無回答

【全体】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると 30.8%、「反対」「どちらかといえば 反対」を合わせると 40.1%で、反対が賛成を約 10 ポイント上回っています。

「どちらともいえない」は23.8%と約4分の1を占めています。

【性別】

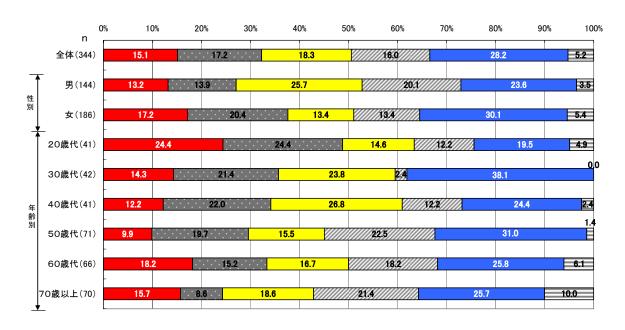
「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると、男性が 51.4%と 5割強を占めているのに対し、女性は 31.7%と 3割強となっており、「子どもを持つ必要性」の意識は女性より男性のほうが高い傾向にあります。

【年齢別】

「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると、70 歳以上が57.2%と6割近くを占め最も多く、次いで50歳代が47.9%となっている一方、30歳代が9.5%と最も少なく、20歳代は29.3%となっています。

したがって、年齢層が高い世代ほど「子どもを持つ必要性」の意識が高い傾向にあります。

3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



■賛成 ■どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □どちらともいえない □無回答

【全体】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると 32.3%、「反対」「どちらかといえば 反対」を合わせると 34.3%、「どちらともいえない」は 28.2%と、いずれも 3 割前後と なっており、この質問項目については考え方がそれぞれ拮抗している傾向にあります。

【性別】

「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると、男性が 45.8%であるのに対し、女性は 26.8%にとどまっており、相手に満足できないときは離婚すればよいという意識は女性のほうが高い傾向にあります。

【年齢別】

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、20 歳代が 48.8%と5割近くを占め最も多く、次いで30歳代(35.7%)、40歳代(34.2%)、60歳代(33.4%)、50歳代(29.6%)、70歳以上(24.3%)となっています。

したがって、年齢層が低い世代ほど「結婚へのこだわり」の意識が低くなっている傾向にあります。

3 男女の役割等に関する意識について

3-1 男女の役割意識

問5. 次に掲げる考え方について、あなたはどう思いますか。(Oはそれぞれ1つずつ)

【全体】

5つの項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定の考え方については、『性別にかかわりなく、個性と能力を重視したほうがよい』が 85.2% と最も多く、次いで『性別にかかわりなく、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』が 84.0%となっており、『男は仕事、女は家庭』という考え方を肯定している方は 34.6%と最も少なくなっています。

【性別】

『性別にかかわりなく、個性と能力を重視したほうがよい』や『性別にかかわりなく、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方については、男性も女性も回答内容が概ね似通っていますが、『男は仕事、女は家庭』や『男は男らしく、女は女らしくあるべき』という考え方については、男女で回答内容に若干差が見られます。

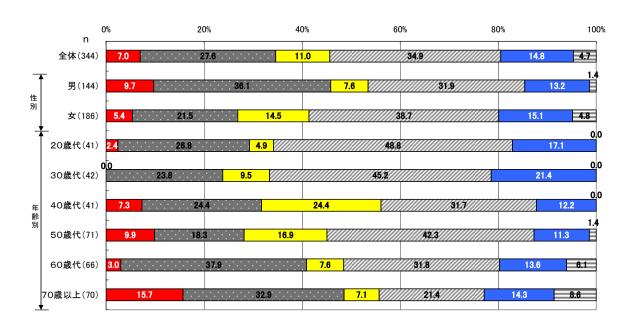
『男は仕事、女は家庭』について見ると、男性は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な考え方は39.5%と4割弱であるのに対し、女性は53.2%と5割以上となっています。したがって、男性より女性のほうがこの考え方について否定的であるということがうかがえます。

【年齢別】

『男は仕事、女は家庭』や『男は男らしく、女は女らしくあるべき』の項目については、20歳代及び30歳代の低い年齢層と、60歳代及び70歳以上の高い年齢層とで、回答内容に大きな差が見られます。

『男は仕事、女は家庭』を見ると、30歳代は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方は23.8%であるのに対し、70歳以上では48.6%と5割を占めています。したがって、この考え方について、若い世代では否定的ですが、年齢層が高い世代では肯定的であることがうかがえます。このような傾向は、『男は男らしく、女は女らしくあるべき』という考え方でも同様となっています。

1. 男は仕事、女は家庭



■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない 回そう思わない ■どちらともいえない □無回答

【全体】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 34.6%、「どちらかといえば そう思わない」「そう思わない」を合わせると 45.9%となっており、『男は仕事、女は家庭』という考え方には、肯定より否定的な方のほうが 11.3 ポイント多くなっています。

【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は 45.8%、女性は 26.9% となっています。

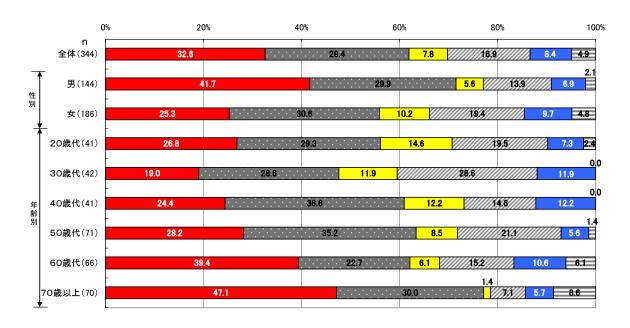
一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると、男性は 39.5% と 4 割弱、女性は 53.2% と 5 割を超えており、『男は仕事、女は家庭』の考え方については、女性のほうが否定的である傾向にあります。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、70 歳以上が 48.6%と最も 多く、次いで 60 歳代が 40.9%となっています。

なお、30歳代では「そう思う」が 0.0%、「どちらかといえばそう思う」が 23.8%となっており、年齢層が高い世代ほど『男は仕事、女は家庭』という考え方に肯定的な方が多くなっている傾向にあります。

2. 男は男らしく、女は女らしくあるべき



■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない 回そう思わない ■どちらともいえない □無回答

【全体】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 62.0%と6割強であるのに対し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 24.7%と4分の1程度となっており、『男は男らしく、女は女らしくあるべき』という考え方には、否定より肯定的な方のほうが 37.3 ポイント多くなっています。

【性別】

男女とも、『男は男らしく、女は女らしくあるべき』の考え方について肯定的な方が多くなっていますが、男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 71.6% と 7割強、女性は 55.9% と 5割強であり、男性のほうが肯定的な考え方がより多くなっています。

【年齢別】

すべての年齢層において、『男は男らしく、女は女らしくあるべき』の考え方に肯定的な方のほうが多くなっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、70歳以上が77.1%と8割近くを占め最も多く、次いで50歳代が63.4%、60歳代が62.1%となっている一方、30歳代が47.6%と最も少なくなっており、年齢層が高い世代ほど『男は男らしく、女は女らしくあるべき』の考え方に肯定的な方が多い傾向にあります。

3. 性別にかかわりなく、個性と能力を重視したほうがよい



■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない 回そう思わない ■どちらともいえない □無回答

【全体】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方が 85.2%であるのに対し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な考え方は 4.9%と、『性別にかかわりなく個性と能力を重視したほうがよい』という考え方にはほとんどの方が肯定の立場にあります。

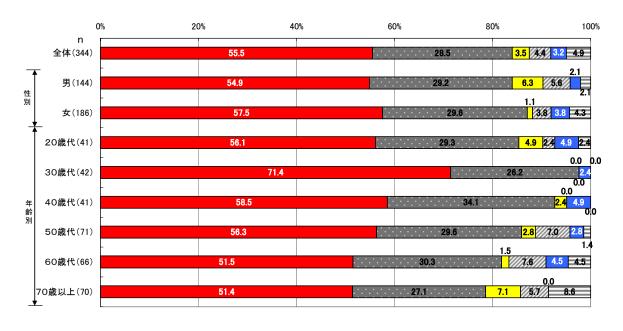
【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方について、男性は88.2%、女性は85.5%と、男性も女性も『性別にかかわりなく個性と能力を重視したほうがよい』という考え方にはほとんどの方が肯定の立場にあります。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、30歳代が97.6%とほぼ100%に近く最も多く、次いで20歳代及び40歳代が90.2%と約9割を占め、最も少ない70歳以上でも82.8%と8割以上を占めています。したがって、すべての年齢層において『性別にかかわりなく個性と能力を重視したほうがよい』という考え方にほとんどの方が肯定の立場にあります。

4. 性別にかかわりなく、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である



■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない 回そう思わない ■どちらともいえない □無回答

【全体】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方が 84.0%であるのに対し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な考え方は 7.9%と、『性別にかかわりなく家事をこなしたり職業技術を身につけることが必要である』という考え方にはほとんどの方が肯定の立場にあります。

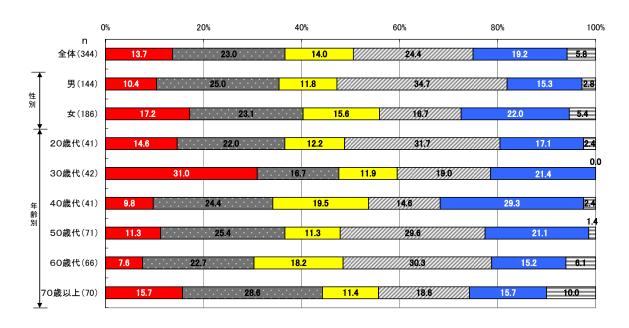
【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方について、男性は84.1%、女性は87.1%と、男性も女性も『性別にかかわりなく家事をこなしたり職業技術を身につけることが必要である』という考え方にはほとんどの方が肯定の立場にあります。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、30歳代が97.6%とほぼ100%に近く最も多く、次いで40歳代が92.6%と9割強を占め、最も少ない70歳以上でも78.5%と8割近くを占めています。したがって、すべての年齢層において、『性別にかかわりなく家事をこなしたり職業技術を身につけることが必要である』という考え方にほとんどの方が肯定の立場にあります。

5. あらゆる職業分野において、男女の比率を同程度にする方がよい



■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない 回そう思わない ■どちらともいえない □無回答

【全体】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 36.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 38.4%となっており、『あらゆる職業分野において男女の比率を同程度にする方がよい』という考え方には、肯定より否定的な方のほうがやや多くなっています。

【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方は、男性が35.4%、女性が40.3%となっています。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な考え方は、男性が46.5%、女性が32.3%となっています。

したがって、男性は否定的な方のほうが多くなっていますが、女性は肯定的な方のほうが多くなっています。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方と、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な考え方について、20 歳代は 36.6%・43.9%とやや否定的、30 歳代は 47.7%・30.9%と肯定的、40 歳代は 34.2%・34.1%で中立的、50 歳代は 36.7%・40.9%とやや否定的、60 歳代は 30.3%・48.5%で否定的、70 歳以上は 44.3%・30.0%と肯定的となっており、各年齢層で意見が分かれています。

4 職業について

4-1 職場における休暇取得環境

問6. 現在、働いている方のみお答えください。あなたの職場では、有休休暇や育児休 業などを取りやすい環境にありますか。(Oはそれぞれ1つずつ)

【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると、『有給休暇』が 30.3% と最も多く、次いで『育児休業』が 22.6%、『介護休業』が 15.8%となっています。

なお、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると、『有給休暇』が24.9%、『介護休業』が18.1%、『育児休業』が17.2%となっており、有給休暇及び育児休業は取りやすいと回答した方のほうが多くなっていますが、介護休業は取りにくいと回答した方のほうが多くなっています。

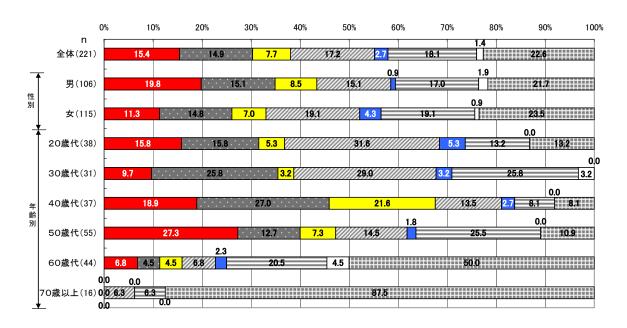
【性別】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」について見ると、『有給休暇』は、男性が合わせて34.9%、女性が26.1%と、男性のほうが有給休暇を取りやすい環境にあることがうかがえます。『育児休業』は、男性が19.9%、女性は25.2%と、女性のほうが育児休業を取りやすいことがうかがえます。『介護休業』は、男性が16.0%、女性が15.6%とほぼ同割合となっています。

【年齢別】

30歳代では、いずれの休暇種別においても「制度がない」と回答した方の割合が他の年齢層より高くなっています。これについて、30歳代は、他の年齢層に比べ「正社員・正職員」の割合が低くなっている一方「パート・アルバイト」の割合が高くなっていることから、このような状況になっているのではないかと推察されます。

1. 有給休暇



■取りやすい ■どちらかといえば取りやすい □どちらかといえば取りにくい □取りにくい ■どちらともいえない □制度がない □わからない □無回答

【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると 30.3%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると 24.9%となっており、有給休暇については取りやすいと回答した方のほうが多くなっています。

【性別】

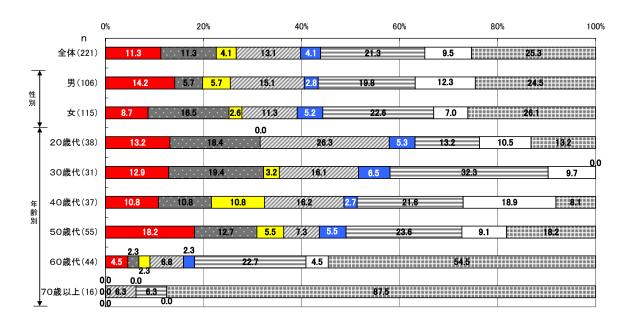
「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると、男性は 34.9%、女性は 26.1%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると、男性は 23.6%、女性は 26.1%となっています。したがって、有給休暇について、男性は取りやすいと回答した方のほうが多くなっていますが、女性は取りやすいと回答した方が同数となっています。

【年齢別】

30 歳代~50 歳代は取りやすいと回答した方のほうが多くなっていますが、20 歳代では取りにくいと回答した方のほうが多くなっており、年齢層が低いほど有給休暇が取りにくい傾向になっています。

なお、20 歳代及び30 歳代は、「取りにくい」と回答した方の割合が31.6%、29.0%と、他の年齢層に比べ高くなっています。

2. 育児休業



■取りやすい ■どちらかといえば取りやすい □どちらかといえば取りにくい □取りにくい ■どちらともいえない □制度がない □わからない □無回答

【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると 22.6%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると 17.2%となっており、育児休業については取りやすいと回答した方のほうが多くなっています。

【性別】

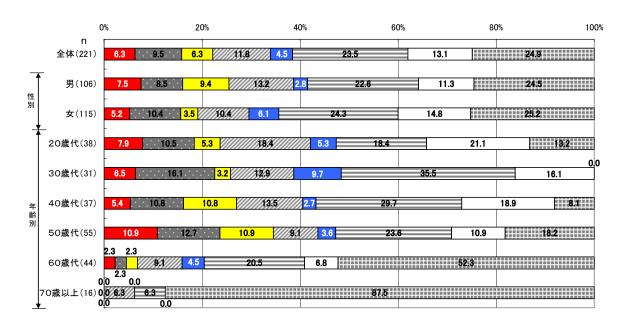
「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると、男性は 19.9%、女性は 25.2%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると、男性は 20.8%、女性は 13.9%となっています。したがって、育児休業について、女性は取りやすいと回答した方のほうが多くなっていますが、男性は取りにくいと回答した方のほうがやや多くなっています。

【年齢別】

20歳代、30歳代及び50歳代は取りやすいと回答した方のほうが多くなっていますが、40歳代では取りにくいと回答した方のほうが多くなっています。

なお、20歳代では、「取りにくい」とした割合が26.3%と、他の年齢層に比べ特に高くなっています。

3. 介護休業



■取りやすい ■どちらかといえば取りやすい □どちらかといえば取りにくい □取りにくい ■どちらともいえない □制度がない □わからない □無回答

【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると 15.8%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると 18.1%となっており、育児休業については取りにくいと回答した方のほうがやや多くなっています。

【性別】

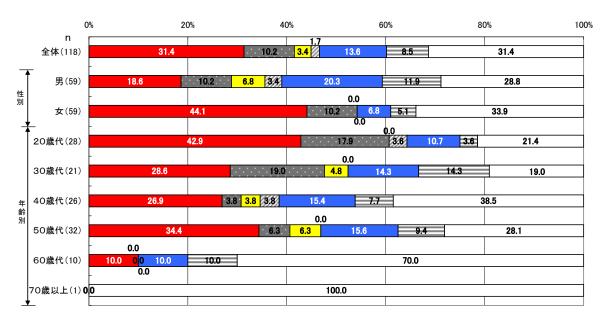
「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせると、男性は 16.0%、女性は 15.6%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせると、男性は 22.6%、女性は 13.7%となっています。したがって、介護休業について、女性は取りやすいと回答した方のほうがやや多くなっていますが、男性は取りにくいと回答した方のほうがやや多くなっています。

【年齢別】

30 歳代及び 50 歳代は取りやすいと回答した方のほうがやや多くなっていますが、20 歳代及び 40 歳代は取りにくいと回答した方のほうが多くなっており、年齢層により回答 結果が分かれています。

4-2 育児休業の取得

問7. 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(Oは1つ)



■1. 取りたい ■2. どちらかといえば取りたい ■3. どちらかといえば取りたくない ■4. 取りたくない ■5. どちらともいえない ■6. わからない □無回答

【全体】

「取りたい」「どちらかといえば取りたい」を合わせると 41.6%、「取りたくない」「どちらかといえば取りたくない」を合わせると 5.1%となっており、育児休業は取りたいと回答した方のほうが多くなっています。

【性別】

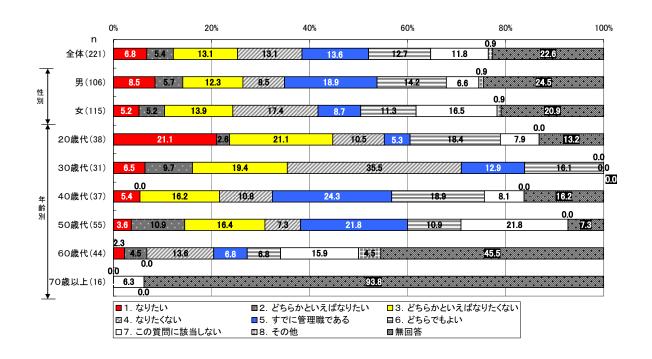
「取りたい」「どちらかといえば取りたい」を合わせると、男性は 28.8%、女性は 54.3% となっています。一方、「取りたくない」「どちらかといえば取りたくない」を合わせる と男性は 10.2%、女性は 0.0%となっており、男性より女性のほうが育児休業の取得を望む方が多くなっています。

【年齢別】

「取りたい」「どちらかといえば取りたい」を合わせると、20歳代が60.8%、30歳代が47.6%、40歳代が30.7%となっており、年齢層が低いほど育児休業の取得を望む方が多くなっています。

4-3 管理職への就任願望

問8. 現在、働いている方のみお答えください。あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(Oは1つ)



【全体】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせると 12.2%、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせると 26.2%となっており、管理職になりたくないと思う方のほうが多くなっています。

【性別】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせると、男性は14.2%、女性は10.4%となっています。

一方、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせると男性は 20.8%、 女性は 31.3%となっており、男女とも管理職になりたくないと思う方のほうが多くなっ ていますが、管理職になりたいと思う方となりたくないと思う方のポイント差は男性よ り女性のほうが大きくなっています。

また、「すでに管理職である」と回答した方は男性が 18.9%であるのに対し、女性は 8.7%と、男性の半分以下となっています。

【年齢別】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせると、20歳代が23.7%と最も多く、30歳代が16.2%、50歳代が14.5%、60歳代が6.8%、40歳代が5.4%となっています。

一方、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせると 30 歳代が 54.9% と最も多く、20 歳代が 31.6%、40 歳代が 27.0%、50 歳代が 23.7%、60 歳代が 13.6% となっています。

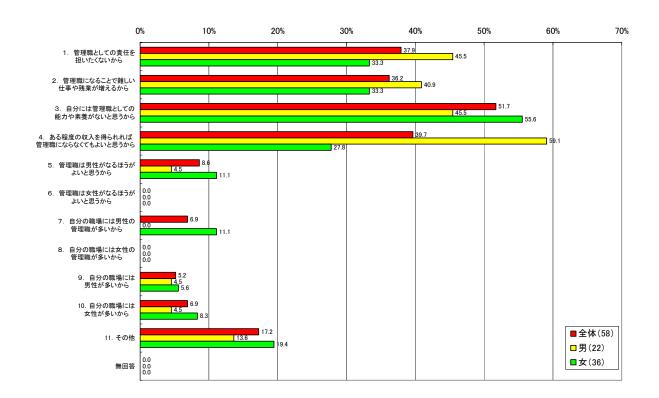
したがって、いずれの年齢層においても管理職になりたくないと思う方のほうが多くなっています。なお、30歳代及び40歳代においては、管理職になりたいと思う方となりたくないと思う方のポイント差が顕著となっています。

4-4 管理職になりたくない理由

問8-1. 問8で「3」または「4」にOをご記入した方のみお答えください。管理職になりたくない理由は何ですか。(Oは3つまで)

【全体】

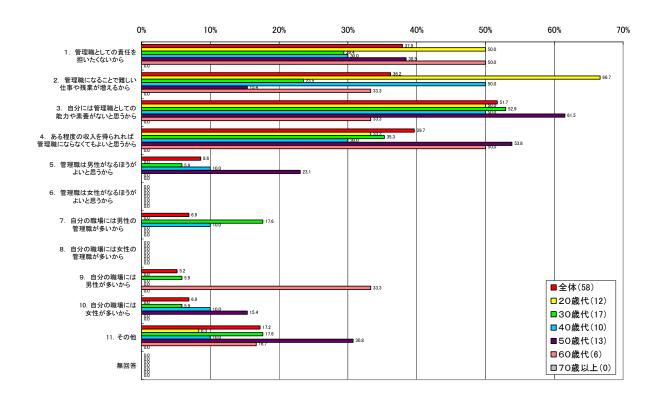
「自分には管理職としての能力や素養がないと思うから」(51.7%)という理由が5割強を占め最も多く、次いで、「ある程度の収入を得られれば管理職にならなくてもよいと思うから」(39.7%)、「管理職としての責任を担いたくないから」(37.9%)、「管理職になることで難しい仕事や残業が増えるから」(36.2%)という理由が多くなっています。



【性別】

男性は、「ある程度の収入を得られれば管理職にならなくてもよいと思うから」 (59.1%) という理由が 6 割弱を占め最も多く、次いで「管理職としての責任を担いたくないから」(45.5%)、「自分には管理職としての能力や素養がないと思うから」(同) という理由が多くなっています。

女性は、「自分には管理職としての能力や素養がないと思うから」(55.6%)という理由が5割を超え最も多く、次いで「管理職としての責任を担いたくないから」(33.3%)、「管理職になることで難しい仕事や残業が増えるから」(同)という理由がそれぞれ3分の1を占め多くなっています。

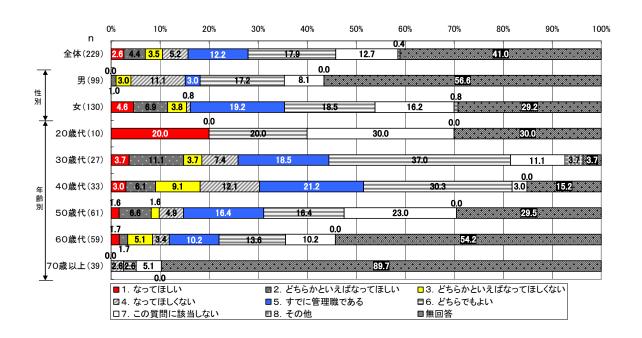


【年齢別】

20 歳代は「管理職になることで難しい仕事や残業が増えるから」(66.7%) という理由が3分の2を占め最も多く、30歳代、40歳代、50歳代は「自分には管理職としての能力や素養がないと思うから」(52.9%、50.0%、61.5%) という理由が最も多くなっています。

4-5 配偶者の管理職への就任願望

問9. 結婚している方で、配偶者が現在働いている方のみお答えください。あなたは配 偶者に管理職になってほしいと思いますか。(Oは 1 つ)



【全体】

「どちらでもよい」が 17.9%と最も多くなっています。また、「なってほしい」「どちらかといえばなってほしい」を合わせると 7.0%、「なってほしくない」「どちらかといえばなってほしくない」を合わせると 8.7%となっており、配偶者に管理職になってほしくないと思う方のほうがやや多くなっています。

【性別】

男女とも「どちらでもよい」が最も多くなっています。

また、「なってほしい」「どちらかといえばなってほしい」を合わせると、男性は 1.0%、 女性は 11.5%で、「なってほしくない」「どちらかといえばなってほしくない」を合わせ ると、男性は 14.1%、女性は 4.6%となっています。

したがって、女性は夫に管理職になってほしいと思う方のほうが多くなっていますが、 男性は妻に管理職になってほしくないと思う方のほうが多くなっています。

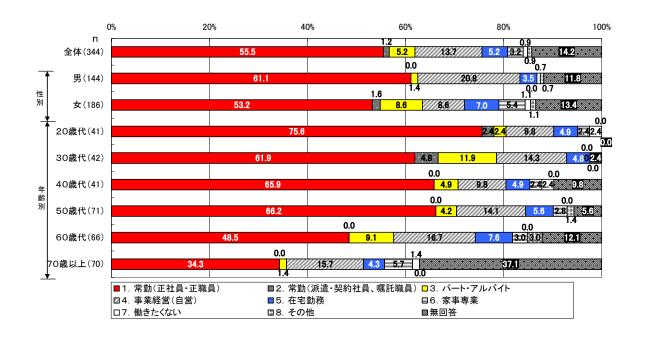
【年齢別】

すべての年齢層において「どちらでもよい」が多くなっています。「どちらでもよい」

と回答した方は、特に 30 歳代 (37.0%) 及び 40 歳代 (30.3%) で多くなっています。 また、40 歳代においては「なってほしい」「どちらかといえばなってほしい」を合わせると 9.1%であるのに対し、「なってほしくない」「どちらかといえばなってほしくない」を合わせると 21.2%で、他の年齢層に比べて、そのポイント差が顕著になっています。

4-6 理想の働き方

問 10. あなたが考える理想の働き方は、次のどれに最も近いですか。(Oは 1 つ)



【全体】

「常勤(正社員・正職員)」が 55.5%と5割以上を占め最も多く、次いで「事業経営(自営)」(13.7%)、「パート・アルバイト」(5.2%)、「在宅勤務」(同)となっています。

【性別】

男性は「常勤(正社員・正職員)」が 61.1% と 6 割強を占め最も多く、次いで「事業経営(自営)」(20.8%) が多くなっています。

女性は、「常勤(正社員・正職員)」が53.2%と5割以上を占め最も多く、次いで「パート・アルバイト」(8.6%)、「事業経営(自営)」(同)となっています。

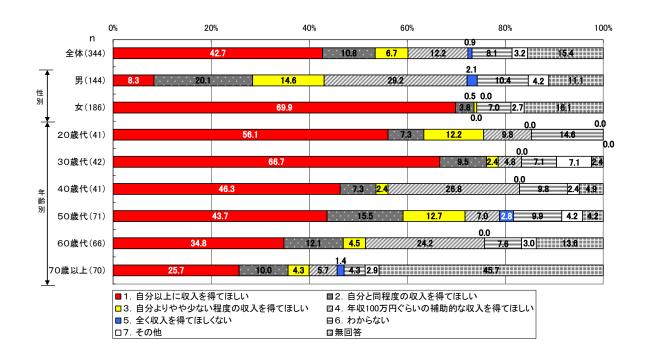
また、「家事専業」は、男性は 0.0%となっていますが、女性は 5.4%となっています。

【年齢別】

すべての年齢層において「常勤(正社員・正職員)」が最も多くなっていますが、特に20歳代では75.6%と4分の3を占め他の年齢層に比べその割合が高くなっています。

4-7 配偶者に希望する収入

問 11. あなたは、配偶者にどれくらいの収入を得てほしいと思いますか。(未婚の方は 結婚していると仮定してお答えください)(Oは1つ)



【全体】

「自分以上に収入を得てほしい」が 42.7% と 4 割強を占め最も多く、次いで「年収 100 万円ぐらいの補助的な収入を得てほしい」(12.2%)、「自分と同程度の収入を得てほしい」(10.8%) となっています。

【性别】

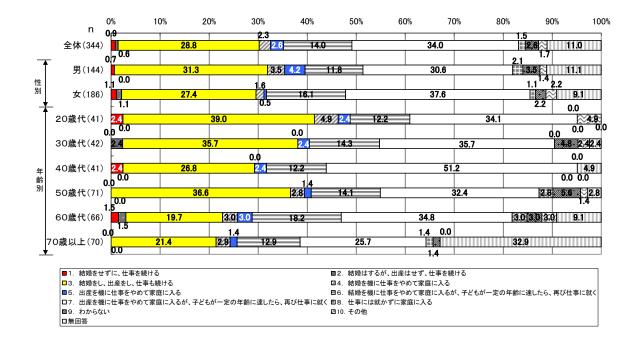
男性は妻に「年収 100 万円ぐらいの補助的な収入を得てほしい」(29.2%) と思っている方が最も多く、次いで「自分と同程度の収入を得てほしい」(20.1%) と思っている方が多くなっています。一方、女性は夫に「自分以上に収入を得てほしい」(69.9%) と思っている方が7割を占め最も多くなっています。なお、「自分以上に収入を得てほしい」という回答について、男性は8.3%と少数にとどまっています。

【年齢別】

いずれの年齢層も配偶者に「自分以上に収入を得てほしい」と思っている方が最も多くなっています。なお、「自分以上に収入を得てほしい」という回答について、30歳代では66.7%と3分の2を占め最も多くなっています。

4-8 女性の仕事や結婚についての理想像

問 12. あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに最も近いですか。(Oは1つ)



【全体】

「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」(34.0%)が最も多く、次いで「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」(28.8%)と回答した方が多くなっています。

【性別】

男性は、「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」(31.3%)が最も多く、次いで「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」(30.6%)が多くなっています。

女性は、「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」(37.6%)が最も多く、次いで「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」(27.4%)が多くなっています。

【年齢別】

「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」という回答を見ると、20歳代が39.0%と4割弱を占め最も多くなっているのに対し、60歳代では19.7%と2割弱にとどまっています。

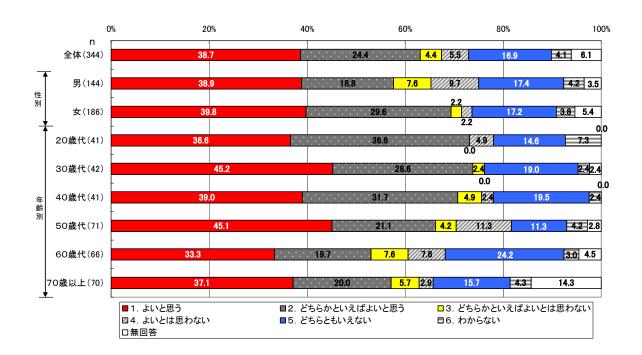
したがって年齢層が低い世代のほうが、結婚や出産をしても仕事も続けることが望ま しいと考えている方が多い傾向になっています。

また、「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び 仕事に就く」という回答を見ると、40歳代が51.2%と5割強を占め最も多くなっていま す。

5 女性の社会への参画について

5-1 指導的地位に占める女性の割合

問 13. あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思いますか。(Oは 1 つ)



【全体】

「よいと思う」(38.7%)、「どちらかといえばよいと思う」(24.4%)を合わせると63.1%と6割以上の方がさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと回答しています。

一方、「よいとは思わない」(5.5%)、「どちらかといえばよいとは思わない」(4.4%)を合わせると 9.9%と 1 割の方がよいとは思わないと回答しています。

なお、「どちらともいえない」は16.9%となっています。

【性別】

男女とも、「よいと思う」(男性 38.9%、女性 39.8%) が最も多く、次いで「どちらかといえばよいと思う」(男性 18.8%、女性 29.6%)、「どちらともいえない」(男性 17.4%、女性 17.2%) の順に多くなっています。

なお、「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と回答した方は、男性(38.9%、18.8%)より女性(39.8%、29.6%)のほうが多くなっているのに対し、「よいとは思わ

ない」「どちらかといえばよいとは思わない」と回答した方は、女性(2.2%, 2.2%)より男性(9.7%, 7.6%)のほうが多くなっています。

【年齢別】

「よいとは思わない」「どちらかといえばよいとは思わない」を合わせると、50 歳代が 15.5%と最も多く、次いで 60 歳代が 15.2%となっています。一方、30 歳代が 2.4% と最も少なく、次いで 20 歳代が 4.9%となっています。

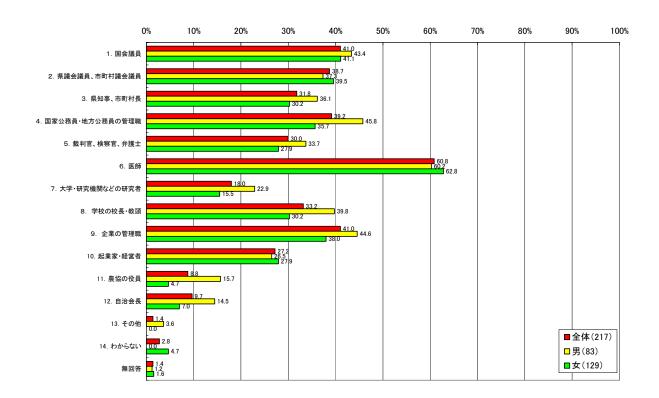
したがって、年齢層が高い世代のほうが、さまざまな職業分野で指導的地位に占める 女性の割合が増えるほうがよいと思わない方が多くなっている傾向にあります。

5-2 女性の割合が増えるほうがよいと思う職業

問 13-1. 問 13 で「1」または「2」にOをご記入した方のみお答えください。次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(Oはいくつでも)

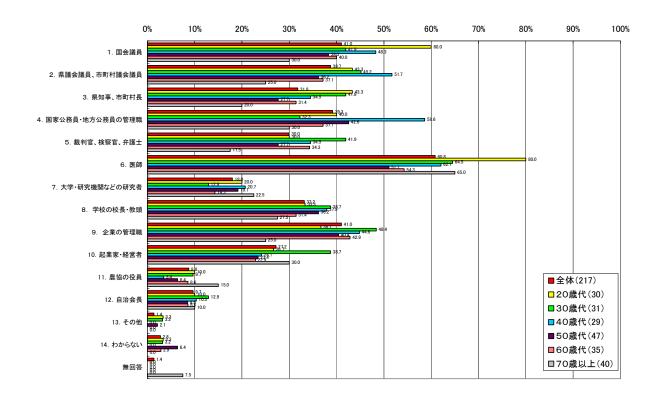
【全体】

「医師」が 60.8%と6割を占め最も多く、次いで「国会議員」(41.0%)、「企業の管理職」(同)、「国家公務員・地方公務員の管理職」(39.2%)、「県議会議委員、市町村議会議員」(38.7%)の順で多くなっています。



【性別】

男女とも「医師」と回答した方 (男性 60.2%、女性 62.8%) が最も多くなっています。 なお、「農協の役員」(男性 15.7%、女性 4.7%)、「国家公務員・地方公務員の管理職」 (男性 45.8%、女性 35.7%)、「学校の校長・教頭」(男性 39.8%、女性 30.2%) は男性 と女性のポイント差が大きくなっています。



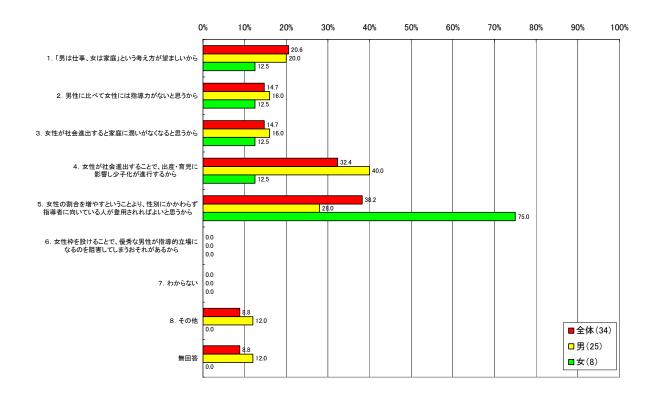
すべての年齢層において「医師」が最も多くなっています。「医師」と回答した方は20歳代が80.0%と8割を占め最も多く、次いで70歳以上が65.0%、30歳代が64.5%と多くなっています。一方、50歳代が51.1%と最も少なく、次いで60歳代が54.3%と少なくなっていることから、若い世代と70歳以上の年齢層において、医師における女性の割合が増えることを望む方が多くなっている傾向にあります。

5-3 指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思わない理由

問 13-2. 問 13 で「3」または「4」にOをご記入した方のみお答えください。指導的 地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思わない理由は何ですか。(Oは2つまで)

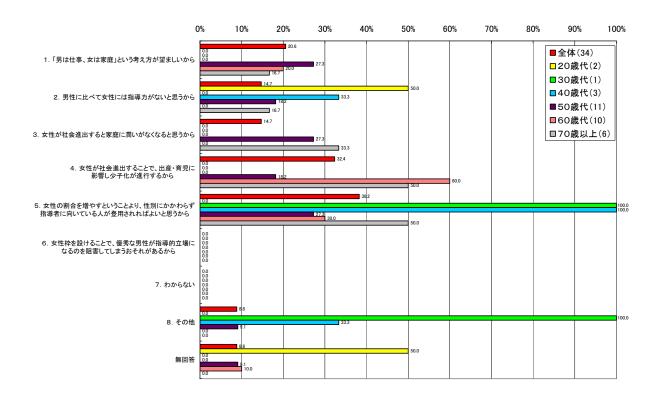
【全体】

「女性の割合を増やすということより、性別にかかわらず指導者に向いている人が登用されればよいと思うから」(38.2%)という理由が最も多く、次いで「女性が社会進出することで、出産・育児に影響し少子化が進行するから」(32.4%)という理由が多くなっています。



【性別】

男性は「女性が社会進出することで、出産・育児に影響し少子化が進行するから」 (40.0%) という理由が最も多くなっていますが、女性は「女性の割合を増やすという ことより、性別にかかわらず指導者に向いている人が登用されればよいと思うから」 (75.0%) という理由が最も多くなっています。なお、男性の回答で最も多かった「女性が社会進出することで、出産・育児に影響し少子化が進行するから」という理由について、女性は 12.5%と少数となっています。



「女性が社会進出することで、出産・育児に影響し少子化が進行するから」という回答理由を見ると、60歳代が60.0%と6割を占め最も多く、70歳代が50.0%、50歳代が27.3%となっていますが、20歳代~40歳代はいずれも0.0%となっています。したがって、年齢層が高い世代においては、女性が社会進出することで出産・育児に影響し少子化が進行することを憂えていることがうかがわれます。

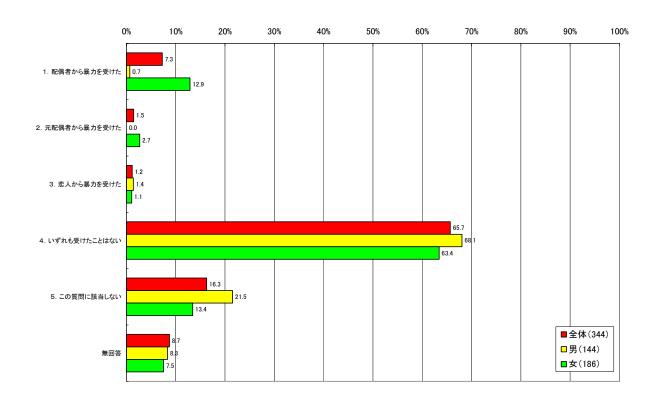
6 人権について

6-1 配偶者等の暴力の経験

問 14. あなたは、今までに配偶者や恋人などから暴力を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてにO)

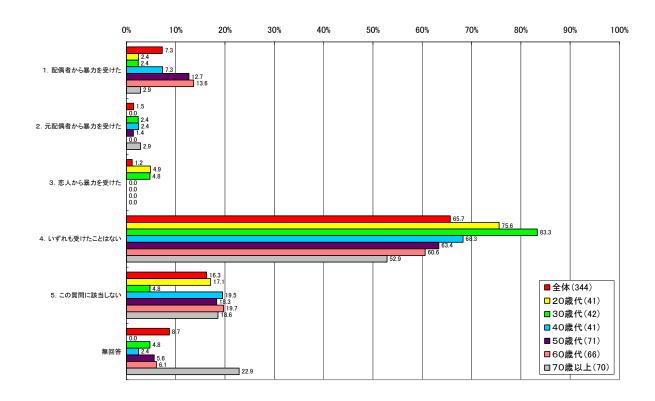
【全体】

「いずれも受けたことはない」(65.7%) 及び「この質問に該当しない」(16.3%) を合わせると 82.0%で、8割以上の方については異性から暴力を受けたことはないという結果になっています。一方、「配偶者から暴力を受けた」(7.3%)、「元配偶者から暴力を受けた」(1.5%)、「恋人から暴力を受けた」(1.2%) を合わせると、1割(10.0%) の方が異性から何らかの暴力を受けているという結果になっています。



【性別】

男女とも、異性から暴力を受けたことはないという方(男性 89.6%、女性 76.8%)が多くなっています。また、男性は、「配偶者から暴力を受けた」(0.7%)、「元配偶者から暴力を受けた」(0.0%)、「恋人から暴力を受けた」(1.4%)を合わせると 2.1%と少数であるのに対し、女性は、同 12.9%、2.7%、1.1%と、合わせて 16.7%で、2割に近い方が男性から何らかの暴力を受けたという結果になっています。

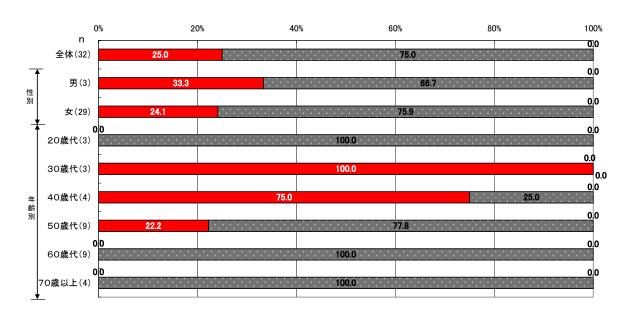


すべての年齢層において、異性から暴力を受けたことはないという方 (20 歳代 92.7%、30 歳代 88.1%、40 歳代 87.8%、50 歳代 81.7%、60 歳代 80.3%、70 歳以上 71.5%)が 多くなっています。

また、「配偶者から暴力を受けた」「元配偶者から暴力を受けた」「恋人から暴力を受けた」を合わせると、50歳代が14.1%と最も多く、次いで60歳代が13.6%となっており、20歳代が7.4%と最も少なくなっています。したがって、年齢層が高い世代のほうが、異性から何らかの暴力を受けた方が多くなっている傾向にあります。

6-2 配偶者等の暴力にかかる相談

問 14-1. 問 14 で「1」「2」「3」のいずれかにOをご記入した方のみお答えください。 暴力を受けたことを誰か(どこか)に相談しましたか。(Oは 1 つ)



■相談した ■相談しなかった □無回答

【全体】

「相談しなかった」が 75.0%と4分の3を占めています。

【性別】

男女とも「相談しなかった」方が多く、男性は 66.7% と 3 分の 2、女性は 75.9% と 4 分の 3 を占めています。

【年齢別】

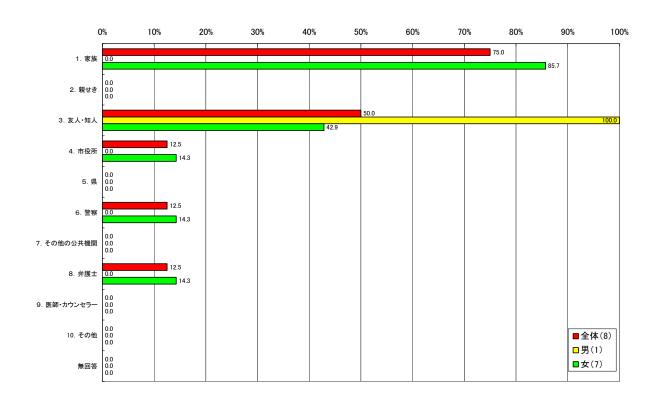
30 歳代及び 40 歳代は「相談した」方が多くなっていますが、20 歳代、50 歳代、60 歳代及び 70 歳以上は「相談しなかった」方が多くなっています。なお、20 歳代、60 歳代及び 70 歳以上は「相談した」方は皆無となっています。

6-3 配偶者等の暴力にかかる相談先

問 14-2. 問 14-1 で「1」にOをご記入した方のみお答えください。実際に誰(どこ) に相談しましたか。(あてはまるものすべてにO)

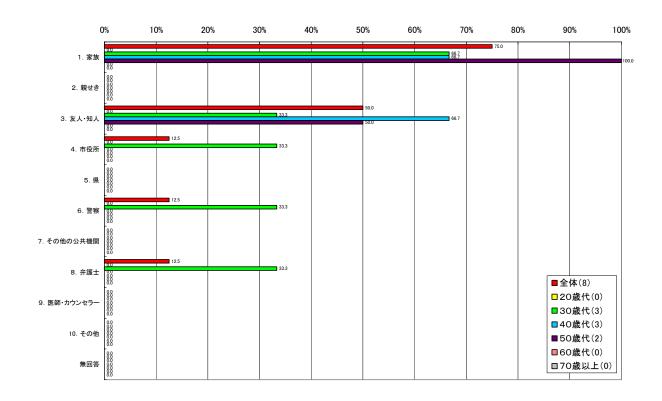
【全体】

「家族」が75.0%と4分の3を占め最も多く、次いで「友人・知人」が50.0%と多くなっています。なお、「警察」及び「弁護士」に相談した方が12.5%(1人)となっています。



【性別】

男性は「友人・知人」(100.0%) となっており、女性は「家族」(85.7%) が最も多く、 次いで「友人・知人」(42.9%) となっています。なお、女性においては、「警察」及び 「弁護士」に相談した方が 12.5% (1人) となっています。



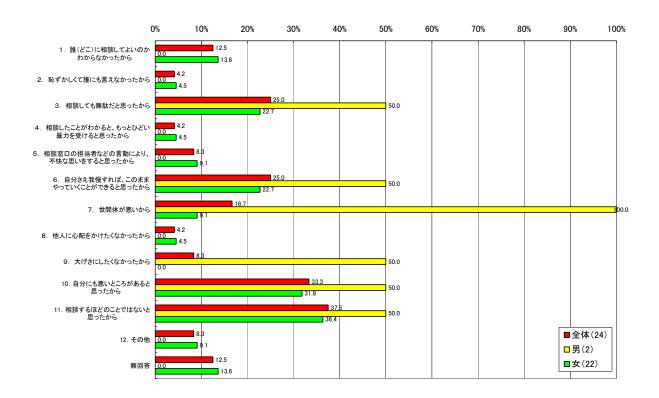
30歳代、40歳代及び50歳代において、いずれも「家族」「友人・知人」に相談している方が多くなっています。なお、30歳代において、「警察」及び「弁護士」に相談した方が12.5%(1人)となっています。

6-4 配偶者等の暴力にかかる相談をしなかった理由

問 14-3. 問 14-1 で「2」にOをご記入した方のみお答えください。誰(どこ)にも相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてにO)

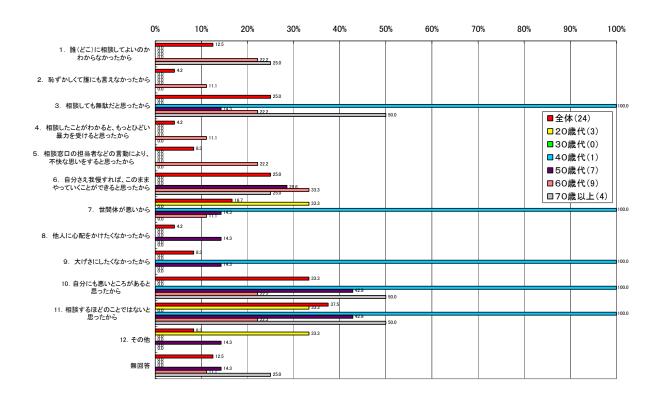
【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」という理由が37.5%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」という理由が33.3%と多くなっています。



【性別】

男性は「世間体が悪いから」(100.0%) という理由になっています。女性は「相談するほどのことではないと思ったから」という理由が 36.4%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」という理由が 31.8%と多くなっています。



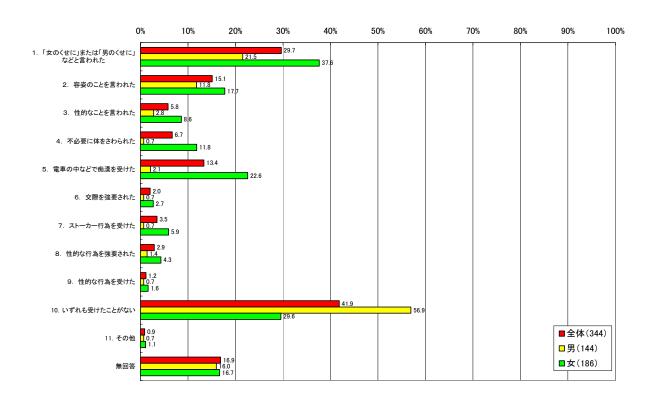
各年齢層において、誰(どこ)にも相談しなかった理由は多岐に及んでいます。

6-5 セクシャルハラスメントの経験

問 15. あなたは、次に掲げるような行為を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてにO)

【全体】

「いずれも受けたことがない」と回答した方が 41.9%と 4割強を占め最も多くなっています。また、「「女のくせに」または「男のくせに」などと言われた」と回答した方は29.7%と 3割を占めています。

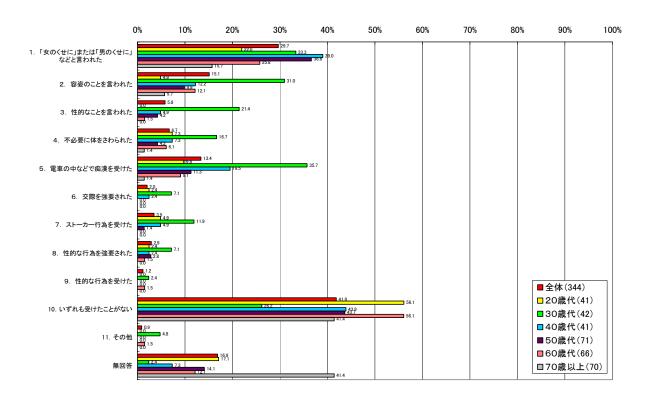


【性別】

「いずれも受けたことがない」と回答した方は男性が 56.9% と 6 割弱を占めていますが、女性は 29.6% と 3 割弱にとどまっています。

また、「「女のくせに」または「男のくせに」などと言われた」と回答した方は、男性が 21.5%と 2 割強に対し、女性は 37.6%と 4 割弱を占めています。

なお、「電車の中などで痴漢を受けた」ことがある女性は2割以上(22.6%)を占めており、女性の5人に1人以上は電車の中などで痴漢を受けた経験があるという結果になっています。



30歳代を除き、「いずれも受けたことがない」と回答した方が最も多くなっています。 なお、30歳代では、「電車の中などで痴漢を受けた」と回答した方が35.7%と3人に 1人以上が電車の中などで痴漢を受けた経験があるという結果になっており、他の年齢 層に比べて多くなっています。

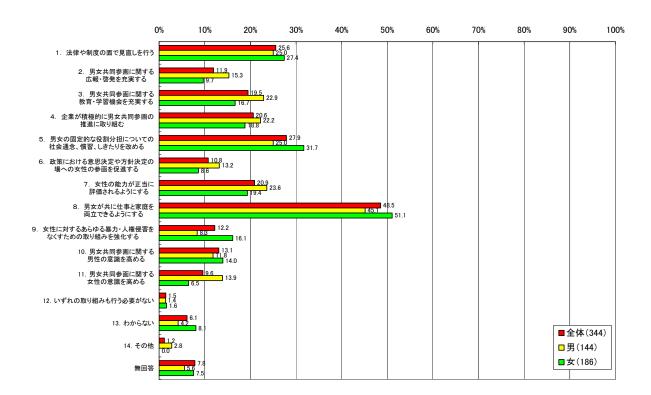
7 男女共同参画の推進について

7-1 男女共同参画社会の実現に向けた必要な取り組み

問 16. 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。 (Oは3つまで)

【全体】

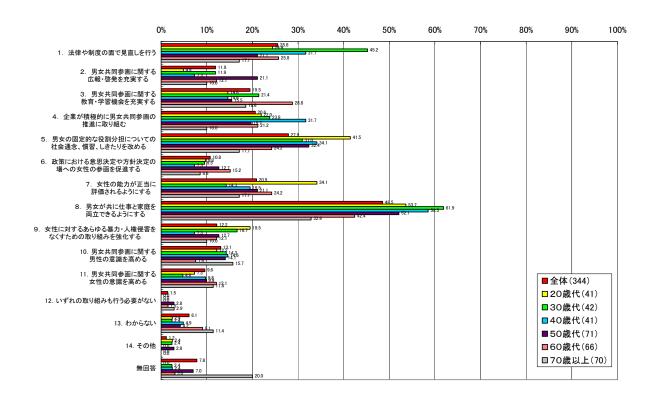
「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方が 48.5%と 5割弱を 占め最も多く、次いで「男女の固定的な役割分担についての社会通念、慣習、しきたり を改める」と回答した方が 27.9%と多くなっています。



【性别】

男女とも、「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方(男性45.1%、女性51.1%)が最も多くなっています。

なお、「女性に対するあらゆる暴力・人権侵害をなくすための取り組みを強化する」という項目については、女性が 16.1%に対し、男性は 8.3%と、女性の半数程度で、他の項目に比べ男女におけるポイント差がやや大きくなっています。

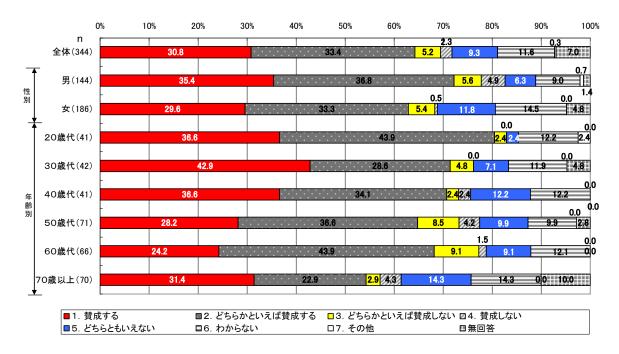


すべての年齢層において「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方が最も多くなっています。なお、この割合については、30歳代が61.9%と最も高く、次いで40歳代が58.5%となっており、70歳代が32.9%と最も低くなっています。

したがって、成長期の子どもがいる年齢層において、「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」取り組みが必要であると思う方が多くなっていることがうかがえます。

7-2 男女共同参画社会の形成への賛否

問 17. あなたは男女共同参画社会の形成という考え方に賛成しますか。(Oは 1 つ)



【全体】

「どちらかといえば賛成する」が33.4%と約3分の1を占め最も多く、次いで「賛成する」(30.8%)が多くなっており、男女共同参画社会の形成という考え方には約3分の2の方が賛成しているという結果になっています。なお、「賛成しない」「どちらかといえば賛成しない」を合わせると7.5%の方が賛成していないという結果になっています。

【性別】

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を見ると、男性が 35.4%と 36.8%、女性が 29.6%と 33.3%で、男性のほうが賛成すると回答した方が多くなっています。

なお、「賛成しない」と「どちらかといえば賛成しない」を見ると、男性が 4.9% と 5.6%、 女性が 0.5% と 5.4% で、男性のほうが賛成しないと回答した方が多くなっています。

【年齢別】

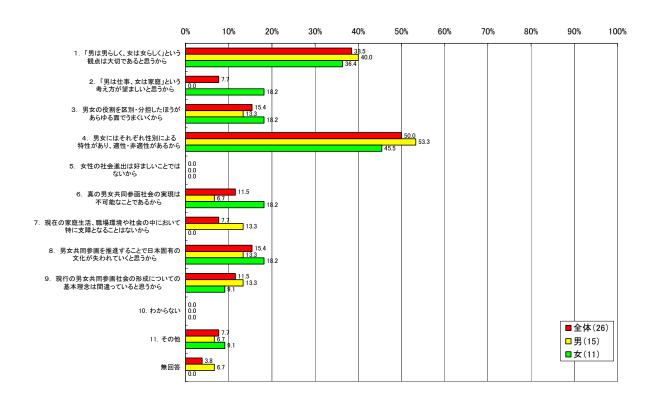
「賛成する」「どちらかといえば賛成する」を合わせると、20歳代が80.5%と8割を占め最も多く、次いで30歳代が71.5%と多くなっており、70歳以上が54.3%と最も少なくなっています。したがって、若い年齢層のほうが男女共同参画社会の形成という考え方に賛成する方が多くなっています。

7-3 男女共同参画社会の形成に賛成しない理由

問 17-1. 問 17 で「3」または「4」にOをご記入した方のみお答えください。賛成しない理由は何ですか。(Oは2つまで)

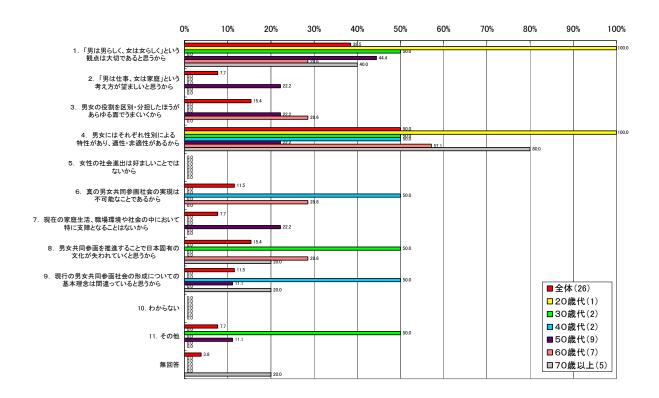
【全体】

「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」が 50.0%と 5 割を占め最も多く、次いで「「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」が 38.5%と多くなっています。



【性別】

男女とも、「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」と回答した方(男性 53.3%、女性 45.5%)が最も多く、次いで「「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」(男性 40.0%、女性 36.4%)と回答した方が多くなっています。なお、「「男は仕事、女は家庭」という考え方が望ましいと思うから」と回答した方は、男性が 0.0%に対し、女性は 18.2%、また、「真の男女共同参画社会の実現は不可能なことであるから」と回答した方は、男性が 6.7%に対し、女性は 18.2%と、女性回答者の割合のほうが高く、他の理由に比べそのポイント差が顕著になっています。



ほとんどの年齢層において、「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」という理由と、「「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」という理由を選択した方の割合が高くなっています。

IV 「その他」の意見

Ⅳ 「その他」の意見

家族構成(回答者の属性)

○ 4世代世帯 (男性·60歳代)

社会全体の中で男性のほうが優遇されていると思われる原因(問 1-1)

○ 女性側に専業主婦という座がある。 (男性・50歳代)

○ 力(腕力等)が強いイコール立場が上だと思う人がいる。 (男性・20歳代)

○ 出産。 (性別・年齢不詳)

管理職になりたいか (問8)

○ 第2の人生だから(職場)。 (男性・60歳代)

<u>管理職になりたくない理由(問 8-1)</u>

- 仕事以外の時間が大切だから。 (男性・40歳代)
- 私は女性ですが、家のこと子どものことがあり、自分自身に余裕がない。 (女性・50歳代)
- 女性は働くことについては男性とスタートラインが違う。家事をこなして管理職に なることは難しいので初めからそのつもりはありません。 (女性・50歳代)
- 家庭の両立が難しくなる。 (女性・30 歳代)
- 残業等が増えると子どもとの時間が減るから。 (女性・30歳代)

○ 管理職になっても仕事内容に見合う給料ではないから。 (男性・20歳代) ○ パートで 60 歳以上だから。 (女性・60歳代) ○ 働きやすい環境を作るために管理職になったほうがよいと思った時になる。 (女性·30 歳代) ○ 時間に縛られたくなく、家族を大切にしたい。 (男性・50歳代) ○ 時間的に遅くなり家庭や子どもが犠牲になってしまうから。 (女性・50歳代) 配偶者に管理職になってほしいか(問9) ○ 本人がやりたいのならば応援する。 (女性・30歳代) 配偶者にどれくらいの収入を得てほしいか (問 11) ○ 空いた時間を使って働く程度でよい。 (男性・30歳代) ○ 贅沢までしなくても普通に生活できる程度でよい。 (女性・30歳代) ○ 家事優先で畑地があれば野菜を作って欲しい。 (男性・70歳以上) ○ 上の人の生活を見てもだめ。自分なりの生活でよい。 (女性・60歳代) 女性の仕事や結婚についての理想像(問 12) ○ 出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、その後は相手に任せる。 (男性・20 歳代) ○ 技術を身につけ在宅で仕事をする。 (女性・60歳代)

○ 結婚をし出産をし育児休暇を長めにもらい仕事に復帰する。 (女性・30歳代)

女性の割合がもっと増えるほうがよいと思う職業(問 13-1)

○ すべて。 (男性・30 歳代)

○ 男女の能力に差がないと思われる仕事。 (男性・20歳代)

指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思わない理由(問 13-2)

○ 日本文化の尊重。米国化反対。 (男性・50歳代)

- やみくもに男女平等を言うより性別による適材適所や性別で分ける必要のない場所 (環境)では女性の進出を積極的にしてよいと思う。 (男性・30歳代)
- 指導的地位の女性の偉そうな態度が嫌い。 (男性・40歳代)

配偶者や恋人などからの暴力を誰(どこ)にも相談しなかった理由(問 14-3)

○ お互いじゃれ合っている時に、たまたまそうなっただけだから。

(女性·20 歳代)

男女共同参画社会の実現に向けてどのような取り組みが必要か(問 16)

○ 民間より公務員の人の認識が薄いのでは? (男性・30歳代)

- 日本の文化、伝統、皇室、祖先をないがしろにする教育はすべて廃止すべき。 (男性・50歳代)
- 〇 機会平等の必要はあるが、男女はもともと特性が異なるのでその特性に合わせた社会づくりが必要と考えます。 (男性・20歳代)

男女共同参画社会の形成という考え方に賛成か(問 17)

○ 差別と区別がごちゃごちゃになるのはいけないと思う。仕事等は適材適所(能力的に)でやってほしい。 (男性・20歳代)

男女共同参画社会の形成という考え方に賛成しない理由(問 17-1)

○ 日本の文化、伝統を破壊するから (男性・50 歳代)

○ 女性が社会進出するためのバックアップが足りないから。 (女性・30 歳代)

V 自由意見

V 自由意見

問 18. 男女共同参画についてご意見がありましたら自由にご記入ください。

- 男女共同参画も必要ですが、男女の特色を生かした社会の形成ができたらよいと思います。 (女性・70歳以上)
- 現在変化しつつあるが、男女の体力の差もあり男女の職域、職業選択が長年続き慣習となっている。仕事、社会的役職等へ男女の枠を越えての人が多くなれば男女差別ではなく能力主義、共同参画につながるのではないか。 (男性・50歳代)
- 男女共同参画に賛成ですが、男女の役割等、いまだに男は仕事・女は家事の考えは なかなか平等にはならないように感じます。 (女性・30歳代)
- 民間には比較的以前より意識が高まっていると思う。 (男性・30歳代)
- 男性が育児休業を1年とれるよう企業は推進してほしい。夫婦が1年ずつ交代でとれたら子どもも幸せだし父親も子どもに対し妻任せにするのではなく、責任感、愛情、もっと親密な関係が生涯続くと思う。 (女性・40歳代)
- 日常生活面や職場内でも男女平等にはなってきていますが、40~50 代頃の成人については平等という言葉は聞かれません。どうしても人任せになります。特に現職場の地位を気にしてしまいます。むしろ若者のほうが平等について家事等区別、分担し、お互いの思いやりがあると思います。職場でも平等もいいと思いますが、やはり男女ともにできる仕事、男でなければ、女でなければと協力し合い一つの職務になると思います。平等も大切です。今はだいぶ職場でも色々と優遇されてきていますので、仕事をしていてもとても楽になりました。平等に気をつけ要求するとチームワークが乱れてしまうことがあり難しいです。 (女性・50歳代)
- 「男女共同参画」など、いかにも役人が役人のために取り上げそうなテーマですね。 老若男女まじり合って社会が成り立つでしょう。こんなことに税金を使わないでくだ さい。 (男性・70歳以上)
- 日本固有のすばらしい文化の継承。欧米化反対。 (男性・50歳代)

○ 男女心の通いが必要である。

- (男性・50歳代)
- 男だから女だからというよりは、個人の能力を正当に評価するという社会通念の浸透が先→教育。自然人として男女の差はないと考えるが社会人として男と女の違いはある。適性の違いということ。適性の違いを抜きにして一律に男女平等で男女同数でというやり方は駄目ですよ。
 (男性・60歳代)
- 育児や介護に男性は積極的に参加していませんね(口だけ)。結局、奥さんが一人背負ってしまいます。50~60才代の男性はそういう教育で育ったんでしょうね。

(女性·50 歳代)

- 1. 日本の文化、伝統、皇室行事、祖先についてもっと啓発すべきである。
 - 1. 日教組、自治労は廃止すべき。
 - 1. 堂本知事のやり方は日本をメルトダウンさせる。やめるべき。
 - 1. 行政はあくまで行事役であって自らこの問題に係わるべきではない。
 - 1. 日本の歴史、世界の歴史を必修にすべき。
 - 1. 英語や音楽より世の中で生きていくのに必要な税金、納税、社保、年金等を早くから教え、学ぶのがよい。 (男性・50歳代)
- 男女共同参画そのものの資料もなくよくわからない。 (女性・70歳以上)
- 市当局があらためて男女共同参画を企画し推進しなければならないほど匝瑳市を含め今の社会は女性を区別したり虐げたりしていないと思う。敢えて市が計画し全住民運動的に推進しようとするなら他に多々あると思えてならない。 (男性・70歳以上)
- 男女共同参画の目的と焦点が今一不明確。 (男性・50 歳代)
- 男女それぞれ特徴を生かして協力しあい、あたたかい平和な楽しいよい家庭または職場をつくっていくことが大切と思う。そういう素晴らしい家庭、職場がつくられるような最低の法的なものは整備されなくてはならないと思う。男も女も特徴を生かせるよう子育ての時期、健康を害した時、いろいろな意味で困った時など救われるよう法的にも整備されたら幸せこの上ない家庭、社会ができると思われる。

(男性・70歳以上)

○ 実現するとは思えない。

(女性・30歳代)

○ 子育ては大事な仕事です。子ども中心にした生活ができる環境であれば男女共同参画もよいと思う。しかし、子育ての問題を抜きにしてはこの問題はとりあげられない。少子化…などの問題もあり、難しいところである。愛情は何よりも子が育つ上で重要である。男女の役割を踏まえた上で進めていければと思う。働く女性が増えても管理職が男性ばかりでは女性を理解したうえでの職場にはなりません。女性の一生の役割は子育てをし社会に送り出すこと。もちろん男性の協力は必要です。

(女性·50歳代)

- 学校での教育。会社、特に経営者や管理職の教育の徹底。法律の規制強化、罰則の強化(曖昧にしない)。憲法で男女平等を掲げているが 60 年経過した今でも男女差別が厳然とあるのはなぜと問いたい。政治家、国民の怠慢です。 (男性・60 歳代)
- (父のことです)私は海辺の自然の中で健康に老を楽しんでおります。今、野の花、稲穂の波、そして季節の土用波、その昔この波が何より好きだった父親を思い出しながら。うぶすな様、お不動様、部落の龍神様に守られて父は何よりうその嫌いなじいさんでした。(女は子を産む)広い心で強い子と、草原から神社のある場所へ引っ越して育ててくれました。 (女性・70歳以上)
- 男女共同参画への取り組みが遅いと思います。 (女性・20歳代)
- 男女共同参画についてあまり知識がない。つまり広報不足なのでは。男女平等という考えについては賛成できるが、差別でなく区別という意味で。男女 o r 女性に向いた役割というものがあると思う。すべてのことで男性女性が 50:50 はありえない。 (男性・20歳代)
- 突然のこのようなアンケートが届き困惑しています。

匝瑳市は年輩の世代が多いので女性が軽視される傾向があります。かといって女性が率先してこのような取組をしたいと思わない節もあります。そのような風潮を打破することが大切であり理解を促すことが始めに必要です。

子どもを育てている女性こそ、未来を担う子どもを教育している人こそ参加すべきなのに(未来を変えていくという意味で)。彼女らに社会参加の時間を与えられないのは行政の怠慢ではないでしょうか。 (女性・30歳代)

○ 既に男女平等の社会のように思える。女性のみ優遇しすぎないよう願いたい。 (男性・50歳代)

- ・体力以外では男女の差は特に無いと思うので男女共同参画でも問題無いと思います。
 - ・男女だけでなく、いろいろな立場、状況に置かれている人たちの声を広く聞いて もらいたい。
 - ・育児休業を取りたくてもその間の収入が妻の収入だけでは生活していけないので 取りたくても取れないのが現状だと思う。
 - ・市町村の議会議員選挙等では、女性の立候補者がほとんどいないのでもっと増え たほうがよいのでは?
 - ・今は少子化で子どもが少なくなっているのでもっと子どもを産み育てやすい環境 (経済面等)の政策を進めていく上では女性のほうが家計や育児環境をよく知って いるので向いていると思う。 (男性・20歳代)
- 男女共同参画は、政策上重要視されて国や県の啓発活動も行われているが、実績と してはいまいちであるように思う。

本市において、どのような男女共同参画の取り組みがあるのかまったく伝わってこない。

「ジェンダーフリー」のスローガンも今は不適切とのことで県は使用していない。「ジェンダーバイアスフリー」として再度検討する必要があると思う。

職業への男女共同参画にしてもまだまだ十分ではない。本アンケートを実施している匝瑳市役所の企画課の男女比はどうか?課長の性別は?まず、市が自ら範を示す覚悟があるのか自問していただきたい。お題目に終わらせぬためにも。

(男性・50歳代)

- 男の能力、女の能力はどんなにがんばっても男に出産が無理なようにそれぞれの限 界があると思う。それぞれがその能力を一生懸命にやったらよいと思う。男女平等と いくらいってもやはり平等にはならないと思う。 (女性・40歳代)
- 男女というより互いの立場を理解しようと努めればそんなに大きな問題はないと思います。何事も相手を尊重しコミュニケーションをはかっていけばクリアできることが多いと考えます。原点に戻り一つ一つ話し合っていく姿勢が大切だと思います。人は人の中で育ち、人は人の中で輝くものです。面倒がらず人と関わっていきたいものです。
- 私の職業のためかアンケートを読んでいてもピンとくることが少なく、賛成する・ しない、どちらもうなずけることがある。"これは男性のほうが"、"これは女性のほう が"と思うことがあります。まだ、よくわからない状態です。 (女性・50歳代)

○ 男と女、生殖が異なる。人間として平等に見る。

仕事といえば収入だけではない。家事専業は収入の範囲で家族の健康のため食事、 子ども成育、年寄の介護、家族の一員としてその時、その時代を工夫しながら。生活 を楽しんで。家族全員で生活すること。自由という言葉で自分中心!!

生活パターンはそれぞれに異なってもよいと思う。それぞれの家庭で家族が健康で 仲良く思いやりの心を大切に。

現在があるのは御先祖様、そして家族のお陰だと感謝々々。家庭、社会、世界の平和を祈る。

このアンケートは私には?皆それぞれに工夫して。

都合の悪いことは逃げないで考え方を変えて家族で努力しましょう。役所の方は悩んでいる人の力になってください。 (女性・70歳以上)

- まず、今回の『男女共同参画』というものが不明瞭で何をしたいのかわからない。 しかし、最近のマスコミ等の報道を見る限りだと、「男らしさ」や「女らしさ」という ものが一種のタブーのように感じられる。もともと男と女は体のつくりや考え方が違 っているため、その特性に合わせた役割が必要だと思います。 (男性・20歳代)
- 男女平等社会となり女性の社会進出が進み経済的余裕ができるとともに生活が派手 に。結婚しても出産せず私生活組の派手さだけが目立っている。 (男性・50歳代)
- 男らしく女らしくあるべきの定義、意味がわかりません。 (男性・60歳代)
- 男女共同参画と言われても何をしたいのかよく意味がわかりません。だれでもわかるようにこのアンケートを通じて文章なり市民のみんながわかるようにお願いします。 (女性・40歳代)
- こちらのアンケート自体、女性の地位を低く見ている解答に非常に困る。女性に失 礼である。この男女共同参画の意図がまったくみえてこないアンケートであります。 市民病院をなくさないようにしていただきたいと思う。 (男性・70歳以上)
- いろんな面において昔よりはかなり男女差はある意味少なくなってきているように 思われます。しかしまだまだ男社会と思う場合も少なからずあるのも事実です。個々人 を尊重しあうところから変わっていかないとむずかしいと思います。

(女性・50 歳代)

○ 私は看護師をしていますが、病院により育児休暇が取れない所が多く、皆、育児に 困っています。

病院だけでなく一般企業においても同等です。今後、この点について改善していた だきたいと思います。 (女性・30歳代)

○ 全く男性と仕事が同じくできればよいが、扶養の範囲で働ければよいと金額で損得 を言って能力を出していない女性が多いので法律的にそういった差をなくせば働く女 性も増え共同参画らしくなると思う。

基本的に配偶者控除を無くしてから男女共同参画社会と言ってほしい。

(男性・20歳代)

○ 家事、育児、介護など、まだまだ女性が家庭の中のことはやるべきという意識が年齢が高い人ほど強い気がします。子どもが生まれて小学校に入るまでは父親も早く家に帰り、育児を手伝えるようにしたり、税金の免除、保育料も安くなればもっと子どもを生む人も増えると思います。

また、夜間の救急の病院(市民病院)の小児科も毎日診察してほしい。

(女性·30 歳代)

VI 調査票

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力のお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

本市では、これから、女性も男性も個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、「匝瑳市男女共同参画計画」(仮称)を策定してまいります。そこで、このたび、計画を策定するにあたり、市民の皆様のご意見をうかがい、計画の策定と今後の施策の基礎資料とするため、意識調査を実施することといたしました。

調査の実施にあたっては、市民の皆様の中から満 20 歳以上の方 1,000 人を無作為に選ばせていただきました。

記入内容につきましては、無記名でお願いし、調査結果は統計的に処理しますので、 個人の名前が公表されることはありません。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

平成 20 年8月

匝瑳市

くご記入にあたってのお願い>

- の あて名のご本人がお答えください。
- ご記入は、鉛筆またはボールペン、万年筆でお願いいたします。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲んでください。その他にあてはまる場合は、お手数ですが、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- お答えは、(○は1つ)(○は3つまで)などと指定していますので、その範囲でご記入ください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問の注 意書きをご確認ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

8月22日(金)までにご返送ください。

く問い合わせ先>

〒289-2198 匝瑳市八日市場ハ 793 番地 2 匝瑳市役所企画課企画調整班 (電話) 0479-73-0081 (FAX) 0479-72-1114 (Eメール) k-kikaku@city.sosa.lg.jp

男女平等に関する意識について

問1 今の生活や社会の状況は、どのようになっていると思いますか。 (Oはそれぞれ1つずつ)

	る 過されてい	ている きれい とがらい とがらい といる といる といい といい といい さんしん いんしん いんしん いんしん いんしん いんしん いんしん いん	いる。平等になって	ている 遇され が優性のほ	る といってい 女性のほうが	わからない
1. 家庭生活では	1	2	3	4	CJ	6
2. 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
3. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
4. 職場では	1	2	3	4	5	6
5. 政治の場では	1	2	3	4	5	6
6. 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
7. 社会通念・慣習では	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体では	1	2	З	4	5	6

問1-1 <u>問1の「8. 社会全体では」の項目で、「1」または「2」に〇をご記入した</u> 方のみお答えください。

社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思われる原因は何だと思いますか。 (Oは3つまで)

- 1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い
- 2. 「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い
- 3. 男女の平等について男性の問題意識がうすい
- 4. 男女の平等について女性の問題意識がうすい
- 5. 男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい
- 6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない
- 7. 能力を発揮している女性を正当に評価する仕組みが十分ではない
- 8. 育児、介護等を男女が共に担うための制度やサービス等が整備されていない
- 9. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる
- 10. その他()

家庭生活について

問2 次の項目について、あなたはどの程度行っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	すい るつ も	す時る々	しない かまり	しない	し該 な当 い
1. 食事のしたく	1	2	3	4	
2. 食事の後片付け	1	2	3	4	
3. 掃除	1	2	3	4	
4. 洗濯	1	2	3	4	
5. ごみ出し	1	2	3	4	
6. 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	
7. 地域活動への参加	1	2	3	4	
8. 乳幼児の世話	1	2	3	4	5
9. 家族の介護	1	2	3	4	5

問3. 平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。 ____ に時間をご記入ください。

1. 家事の時間	1日当たり平均	時間	<u>分</u>
2. 育児の時間	1日当たり平均	時間	<u>分</u>
3. 介護の時間	1日当たり平均	時間	<u>分</u>
4. 仕事の時間(通勤時間を含む)	1日当たり平均	時間	分

問4. 次のことについて、あなたはどう思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	賛成	いえば賛成どちらかと	いえば反対と	反対	いえない
 結婚は個人の自由だから結婚してもしなくて もどちらでもよい 	1	2	3	4	5
2. 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

男女の役割等に関する意識について

問5. 次に掲げる考え方について、あなたはどう思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	ばそう思う	ばそう思わないどちらかといえ	そう思わない	ないともいえ
1. 男は仕事、女は家庭	1	2	3	4	5
2. 男は男らしく、女は女らしくあるべき	1	2	3	4	5
3. 性別にかかわりなく、個性と能力を重視 したほうがよい	1	2	3	4	5
4. 性別にかかわりなく、家事をこなしたり、 職業技術を身につけることが必要である	1	2	3	4	5
5. あらゆる職業分野において、男女の比率を同程度にする方がよい	1	2	3	4	5

職業について

問6. 現在、働いている方のみお答えください。

あなたの職場では、有休休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。

(〇はそれぞれ1つずつ)

	取りやすい	やすい いえば 取り	にくい いえば 取り	取りにくい	いえない	制度がない	わからない
1. 有給休暇	1	2	3	4	5	6	7
2. 育児休業	1	2	3	4	5	6	7
3. 介護休業	1	2	3	4	5	6	7

問7.現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 取りたい

4. 取りたくない

2. どちらかといえば取りたい

5. どちらともいえない

3. どちらかといえば取りたくない 6. わからない

問8. 現在、働いている方のみお答えください。

あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(〇は1つ)

1. なりたい

5. すでに管理職である

2. どちらかといえばなりたい

6. どちらでもよい

3. どちらかといえばなりたくない

7. この質問に該当しない

4. なりたくない

8. その他(

問8-1. <u>問8で「3」または「4」に〇をご記入した方のみお答えください。</u>

管理職になりたくない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- 1. 管理職としての責任を担いたくないから
- 2. 管理職になることで難しい仕事や残業が増えるから
- 3. 自分には管理職としての能力や素養がないと思うから
- ある程度の収入を得られれば管理職にならなくてもよいと思うから 4.
- 5. 管理職は男性がなるほうがよいと思うから
- 6. 管理職は女性がなるほうがよいと思うから
- 7. 自分の職場には男性の管理職が多いから
- 8. 自分の職場には女性の管理職が多いから
- 9. 自分の職場には男性が多いから
- 10. 自分の職場には女性が多いから
- 11. その他(

)

問9. 結婚している方で、配偶者が現在働いている方のみお答えください。 あなたは配偶者に管理職になってほしいと思いますか。(〇は1つ)

1. なってほしい

5. すでに管理職である

2. どちらかといえばなってほしい 6. どちらでもよい

3. どちらかといえばなってほしくない 7. この質問に該当しない

4. なってほしくない

8. その他(

問 10. あなたが考える理想の働き方は、次のどれに最も近いですか。(〇は1つ)

- 1. 常勤(正社員・正職員)
- 5. 在宅勤務
- 2. 常勤(派遣・契約社員、嘱託職員) 6. 家事専業

3. パート・アルバイト

7. 働きたくない

4. 事業経営(自営)

8. その他(

問 11. あなたは、配偶者にどれくらいの収入を得てほしいと思いますか。(未婚の方は 結婚していると仮定してお答えください)(〇は1つ)

- 1. 自分以上に収入を得てほしい
- 2. 自分と同程度の収入を得てほしい
- 3. 自分よりやや少ない程度の収入を得てほしい
- 4. 年収 100 万円ぐらいの補助的な収入を得てほしい
- 5. 全く収入を得てほしくない
- 6. わからない
- 7. その他(
- 問 12. あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに 最も近いですか。(〇は1つ)
 - 1. 結婚をせずに、仕事を続ける
 - 2. 結婚はするが、出産はせず、仕事を続ける
 - 結婚をし、出産をし、仕事も続ける 3.
 - 4. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入る
 - 5. 出産を機に仕事をやめて家庭に入る
 - 6. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕 事に就く
 - 7. 出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕 事に就く
 - 8. 仕事には就かずに家庭に入る
 - 9. わからない
 - 10. その他(

女性の社会への参画について

- 問 13. あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合 が増えるほうがよいと思いますか。(〇は1つ)
 - 1. よいと思う

- 4. よいとは思わない
- 2. どちらかといえばよいと思う
- 5. どちらともいえない
- 3. どちらかといえばよいとは思わない 6. わからない
- 問 13-1. 問 13 で「1」または「2」に〇をご記入した方のみお答えください。 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのは どれですか。(〇はいくつでも)
 - 1. 国会議員

- 8. 学校の校長・教頭
- 2. 県議会議員、市町村議会議員
- 9. 企業の管理職

3. 県知事、市町村長

- 10. 起業家・経営者
- 4. 国家公務員・地方公務員の管理職
- 11. 農協の役員
- 5. 裁判官、検察官、弁護士
- 12. 自治会長

6. 医師

- 13. その他(
- 7. 大学・研究機関などの研究者
- 14. わからない
- 問 13-2. 問 13 で「3」または「4」に〇をご記入した方のみお答えください。 指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと思わない理由は何ですか。 (Oは2つまで)
 - 1.「男は仕事、女は家庭」という考え方が望ましいから
 - 2. 男性に比べて女性には指導力がないと思うから
 - 3. 女性が社会進出すると家庭に潤いがなくなると思うから
 - 4. 女性が社会進出することで、出産・育児に影響し少子化が進行するから
 - 5. 女性の割合を増やすということより、性別にかかわらず指導者に向いている人が 登用されればよいと思うから
 - 6. 女性枠を設けることで、優秀な男性が指導的立場になるのを阻害してしまうおそ れがあるから
 - 7. わからない
 - 8. その他(

)

人権について

問 14. あなたは、今までに配偶者や恋人などから暴力を受けたことがありますか。 (あてはまるものすべてにO)

- 1. 配偶者から暴力を受けた
- 4. いずれも受けたことはない
- 2. 元配偶者から暴力を受けた
- 5. この質問に該当しない
- 3. 恋人から暴力を受けた
- 問 14-1. <u>問 14 で「1」「2」「3」のいずれかに〇をご記入した方のみお答えください。</u> 暴力を受けたことを誰か(どこか)に相談しましたか。(〇は1つ)
 - 1. 相談した

- 2. 相談しなかった
- 問 14-2. <u>問 14-1で「1」に〇をご記入した方のみお答えください。</u> 実際に誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに〇)
 - 1. 家族

6. 警察

2. 親せき

7. その他の公的機関

3. 友人・知人

8. 弁護士

4. 市役所

9. 医師・カウンセラー

5. 県

- 10. その他(
- 問 14-3. <u>問 14-1で「2」に〇をご記入した方のみお答えください。</u> 誰(どこ)にも相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)
 - 1. 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
 - 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
 - 3. 相談しても無駄だと思ったから
 - 4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから
 - 5. 相談窓口の担当者などの言動により、不快な思いをすると思ったから
 - 6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから
 - 7. 世間体が悪いから
 - 8. 他人に心配をかけたくなかったから
 - 9. 大げさにしたくなかったから
 - 10. 自分にも悪いところがあると思ったから
 - 11. 相談するほどのことではないと思ったから
 - 12. その他(

問 15. あなたは、次に掲げるような行為を受けたことがありますか。 (あてはまるものすべてにO)

- 1. 「女のくせに」または「男のくせに」などと言われた
- 2. 容姿のことを言われた
- 3. 性的なことを言われた
- 4. 不必要に体をさわられた
- 5. 電車の中などで痴漢を受けた
- 6. 交際を強要された
- 7. ストーカー行為を受けた
- 8. 性的な行為を強要された
- 9. 性的な行為を受けた
- 10. いずれも受けたことがない
- 11. その他(

男女共同参画の推進について

- 問 16. 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。 (Oは3つまで)
 - 1. 法律や制度の面で見直しを行う
 - 2. 男女共同参画に関する広報・啓発を充実する
 - 3. 男女共同参画に関する教育・学習機会を充実する
 - 4. 企業が積極的に男女共同参画の推進に取り組む
 - 5. 男女の固定的な役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める
 - 6. 政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する
 - 7. 女性の能力が正当に評価されるようにする
 - 8. 男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする
 - 9. 女性に対するあらゆる暴力・人権侵害をなくすための取り組みを強化する
 - 10. 男女共同参画に関する男性の意識を高める
 - 11. 男女共同参画に関する女性の意識を高める
 - 12. いずれの取り組みも行う必要がない
 - 13. わからない
 - 14. その他(

1.	「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから	
2.	「男は仕事、女は家庭」という考え方が望ましいと思うから	
3.	男女の役割を区別・分担したほうがあらゆる面でうまくいくから	
4.	男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから	
5.	女性の社会進出は好ましいことではないから	
6.	真の男女共同参画社会の実現は不可能なことであるから	
7.	現在の家庭生活、職場環境や社会の中において特に支障となることはないから	ò
8.	男女共同参画を推進することで日本固有の文化が失われていくと思うから	
9.	現行の男女共同参画社会の形成についての基本理念は間違っていると思うから	ò
10.	わからない	
11.	その他()

問 18. 男女共同参画についてご意見がありましたら自由にご記入ください。

あなた自身のことについて

F1 あなたの性別(〇は1つ)

1. 男性

2. 女性

F2 あなたの年齢(〇は1つ)

- 1. 20 歳~29 歳
- 4.50 歳~59 歳

2. 30 歳~39 歳

5.60 歳~69 歳

3. 40 歳~49 歳

6.70 歳以上

F3 あなたの職業は次のうちどれですか。(〇は1つ)

1. 正社員・正職員

- 5. 家事専業
- 2. 派遣・契約社員、嘱託職員
- 6. 学生

3. 自営業・自由業

7. 無職

4. パート・アルバイト

8. その他(

F4 あなたは結婚されていますか。(〇は1つ)

1. 未婚

- 2. 既婚(事実婚を含む)
- 3. 離別・死別

)

F 5 あなたにはお子さんがいますか。(Oは1つ)

1. いる

2. いない

F6 あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。(Oは1つ)

1. ひとり暮らし

- 4. 3世代世帯(親・子・孫)
- 2. 1世代世帯 (夫婦のみ)
- 5. その他(

3. 2世代世帯 (親・子)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

8月22日(金)までにご返送ください。

_	1	1	8	_
---	---	---	---	---

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告書

平成20年12月発行

編集·発行 匝瑳市企画課

7 2 8 9 - 2 1 9 8

匝瑳市八日市場ハ793番地2

電話0479-73-0081